

新聞雜誌

第六五〇號

18
117
2



昭和十年
二月十九日
麟求

新聞雜誌

第六號

明治辛未七月

定價二匁



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑惟ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今口カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノサニヲヒ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢ガタキ世ニ生レニカヒ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞ニ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中
 人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頃ナル心僻メル事ヲ棄テ一ナリ 願ハ此冊子
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ニ驚可ク
 喜可キ事多ク唯 賜目ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レ夏虫氷ヲ疑 笑有リト知
 玉ハサヲツ 復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ハタレ

新聞雜誌第六號

明治四年辛未

○從來ノ漢學ハ其教方甚迂遠ニシテ生徒皆成立ニ苦
 メリ因テ今般大學本校開興ニ付テハ最初ニ教ユベキ
 書ハ皆和譯シテ授ケントノ御趣意ニテ原書已ニ和譯
 最中ナリト云

○當今大學ニテ語彙ト稱スル日本字引編集アルヨシ
 追々出来スベシト

五月中大學南校教師并ニ生徒負
 教師米人四名英人五名佛人三名字人三名瑞士人一名

生徒入舎生四百八十五人
貢進生三百十二名
 外生百七十七名
 外來生七
 百六人
 總計千百九拾五人
英學七
 名
 獨乙
 堂
 百六十三名

同洋行ノ人負

佛 中博士入江文郎
寺 松本銈太郎 静岡藩

英 官 中博士鈴木 暢
米 生 高戸 賞士 福山藩

英 大助教小林儀秀
米 長谷川雉郎 姫路藩

英 小倉良儔
米 松本莊一郎 大垣藩

英 丹羽武治
徒 米 香月經五郎 佐賀藩

米 少助教柳本寛敬
水 目賀田種太郎 静岡藩

英 菊池大麓
白身 梶原且次郎 金沢藩

白身 古賀護太郎 山長藩

○四月十四日ヲテ外務省ヨリ外國へ渡海ヒシ人負ニ
 渡セシ印鑑四百十一號ナルヨシ

○米國留學生ノ中ニテ鹿兒嶋藩杉浦弘藏同藩湯池治
 右衛門福井藩柳本直太郎三人ノ者へ辨務使ヨリ生徒

總代ヲ申シ付タルヨシ

○東京七八年前ハ極メテ下産ノ者タリトモ其子ノ二
 十歳頃マデハ安逸遊治ニ育テシカ當節ハ中産ノ者ニ
 テモ十歳以上ニナレバ各相應ノ心勞力役ヲササシム
 ルニ至レリト以テ游食ノ徒ノ漸減ズルコ見ルベシ

東原藩知事板倉勝達上書寫

臣勝達謹奉言上候當今各藩ニ於テ士卒ノ定職ヲ解キ
 歸農ノ願御許容ノ上ハ全國往々其一途一歸セシメン
 トノ御趣意ト奉存候就テハ當藩ニ於テモ其御趣意ヲ
 奉体シテ歸田ニ進歩可為仕候其歸田ノ年限細目ノ立
 法ハ後日成算ノ上可奉伺候ハ先ツ藩政力方面ノ
 任ニ不當練兵仕候ハヨリ寧ク解兵仕其ノ費ヲ以テ
 士卒歸農ノ資本トシ天然ノ生産ヲ得セシメ度志願
 ニ御座候且兵器モ官納仕度他緩急事ニ應ズルノ節ハ
 豫メ管轄中四民ヨリ壯健ノ者相撰置可奉應命候云々

○六月中徳山藩山口藩ニ合併セリ

○同今部大溝藩知事其職ヲ辞シ藩ヲ廢セラレタリ

○津和野藩願ノ通り藩ヲ廢セラレ濱田縣管轄ニナリ
 々々向ニ廢藩ヲ願ヒシトキ會計ノ方法等ニモ能心ヲ
 盡シ藩債藩楮幣償還ノ目的ヲモ立入税ヨリ一藩ノ諸
 費ヲ比較シテ毎歲米二十九百石金八萬千二百兩ノ餘
 資ヲ得ルニ至ルト

○或夜本局ノ中エ屏外ヨリ一封ヲ投ゼシモノアリ翌
 朝始テ之ヲ知り披キ見ルニ左ノ一書ヲ得タリ依テ茲
 ニ録ス御維新ノ始ニハ百官俸禄悉ク金給ナリシガ今

ハ改マリテ米給トナリタリ然レモ愚ヲ以テ之ヲ見レ
 バ金給ノ方却テ公平ナルニ似タリ抑テ給ノ弊タルヤ
 米賈ケレバ俸増シ米賤シケレバ俸減ズ故ニ豊年ハ萬
 民ノ樂ニテ官人ノ憂ナリ凶年ハ萬民ノ憂ニテ官人ノ
 樂ナリ情勢相反スル丁此ノ如シ安ソ官民心ヲ一ニス
 ル丁ヲ得ンヤ或ハ云金給ナレバ凶年ノ時官人困窮ス
 ベシト是或ハ然ラン然レモ凶年ハ全國ノ災ナリ全國
 災ハ全國俱ニ之ヲ困シムベシ官人獨リ困シマサル
 丁ヲ得ンヤ之ヲ要スルニ金給ナレハ平庸ノ胥吏ト雖
 モ能衆喪ト憂樂ヲ俱ニスベシ米給ナレバ有徳ノ君子

ト雖モ或ハ之ヲ異ニセニ丁ヲ恐ル法ノ利害亦明ナリ
 方今百事日新ノ抗柄只此一事退歩スルニ似タリ盛時
 ノ爲ニ惜マサルヲ得スト云々
 ○此頃市街ニ賣販セル西洋各國比競三坐俳優評判ト
 題セル中ニ

支那
 支那ドラル 岩井紫若

儒佛ノ國教往古ヨリ傳ハリテ別ニ新發明ノ工夫モナ
 ケレド自然ト大國ノ位備ハリテスハラシテオイトモ
 立才山シカシ烈シキ戦争ニハ因循ノ弊習アリテ大國
 ダケノ權ヲフルハズ

和蘭 中村壽三郎

此前米外ニテオ上リノ時ハ小國ナガバレノ御
威勢ト評判ナリシガ今度ノオ上リニ御改谷ノカヒモ
ナク格別ノ高評ナキハ追々文明開化ノ代トナリテハ
ダガ皆召人ニナツタユヘカ

○福井高知ノ二藩ヨリ官負齋刀ノ儀伺ヒ出シニ禮服
善用ノ外ハ勝手タルベキ旨御付紙アリケレバ少史權
少史主記官掌一同ヨリモ同様同ヒニ二藩ノ如ク御
聞届ケ之アリレト云

○桑名藩上龍鐵次郎ナルモノ常ニ藩政ノ不振ヲ慊歎

シアリケルガ終ニ憂慮ノ至哀ニ堪カ子弊政ノ最モ患
ベキモノ六ヶ條ヲ認メ五月十日之ヲ大參事某へ差出
シ其夜七回邸明長屋ノ内ニテ自盡シタリ今年甫テ十
九歳其體最モ潔ク咽ヲ貫キ端坐シテ死シ側ラニ故郷
ノ母親工贈ル一封并ニ親友エノ書翰ヲ遺シ置ケリ平
生ノ行跡モ方正ニシテ信義ヲ守リ當府在留中ハ田口
文造ノ私塾ニ通學セシヨシ又嘗テ鹿兒島エモ遊學シ
ケレバ彼藩旧識ノ人甚ソノ忠死ヲ追悼シ墓前ニ石燈
一基ヲ寄附セリト云

○西京ヨリ越前敦賀工ノ鐵道ヲ西京ニテ商人等會社

ヲ結ビ造營センコトヲ官ニ乞フト云
 ○或人ノ説ニ缺齧ヲ以テ齒ヲ染ルハ所謂日來ノ陋習
 ナリ是ヲ以テ措紳家ニハ御維新ノ始ノ速ニ之ヲ廢セ
 ラレタリ婦人ハ齒ヲ染ルノミナラズ眉毛ヲ剃落シ生
 來ノ美ヲ損シ求メテ不具ノ姿トナルコト何等ノ殺風景
 ヲヤサレ氏因習ノ久シキ今ハ却テ美ヲ増スト思ヘリ
 蝦夷ノ婦人ノ面頰ニ花紋ヲ點スルト均シク甚シキ惑
 ヒナリカハル中ニモ心アル男子ハ齒ヲ染ノズ眉ヲ剃
 ラザル婦人ヲ貴フ者少カラズ婦人モ亦齒ヲ染メ眉ヲ
 剃ルヲ惜ミ歎ク者ナキニシモ非ガレモ一般ノ風俗ニ

悖ルヲ憚リテ其志ヲ行フコトヲ得ズ最モ悲ムベシ吾輩
 竊ニ以爲此ノ如キノ陋習政令ヲ以テ之ヲ禁ゼズンハ
 竟ニ一洗ノ期ナカラシム亦世上ノ公論アルベシ
 六月廿五日免本官

- 同 參議大隈 重信
- 同 參議木戸 孝允
- 同 參議佐々木 高行
- 同 參議齋藤 利行
- 同 御用有之東京滞在 齋香向祇候被仰付 神祇 兼宣教長官 中山 忠能
- 同日免本官 兼官 兵部卿熾仁親王

同

同 齋香間 祇候
被仰付

同

同

同

同日免本官并兼官

同

同日免本官

同

同日任參議

宮内卿萬里小路博房

彈正尹九條道孝

神祇大副近衛忠房

民部大輔大木喬任

宮内大輔烏丸光德

神祇少副
兼宣教次官 福羽美靜

大藏少輔
兼造幣頭 井上馨

兵部少輔山縣有朋

刑部少輔穴戶璣

從三位 木戸孝允

同任參議叙正三位

此兒島藩
人參事 西卿隆盛

同廿六日兼任神祇伯宣教長官

右大臣三條實美

同日任神祇少副兼宣教次官

從四位 福羽美靜

同任大藏卿

從三位 大久保利通

同任大藏大輔

從四位 大隈重信

同任工部大輔

從四位 後藤元燁

同廿九日任兵部少輔

從五位 山縣有朋

同日逐々老年苦勞被
思召本官ヲ免シ持旨ヲ
以テ終身現米五百石下賜齋香間祇候大嘗會御
用掛被仰付

從一位 中山忠能

同任宮内大輔

正三位 萬里小路博房

同任民部少輔

從五位 井上馨

同任宮内少輔

七月朔日制度取調被仰付

大藏卿大久保利通

大藏大輔大隈重信

民部少輔井上馨

神祇少副福羽美静

外務大輔寺島宗則

兵部少輔山縣有明

從四位 佐々木高行

同 同 同 同 同

○名古屋城樓上金造ノ鯨魚兩頭世ニ名高カリシ品ナルガ今般同藩ヨリ之ヲ東京ニ送り 朝廷ニ獻納セリ

其高廿九尺餘鱗甲鱗尾皆葉金ヲ以テ裹メリ運轉ノ人

力兩個ニ八十人ヲ用ユト云

○福岡藩贖札事件ニ付黒田長知知事職ヲ免ゼラレ有

柄川宮代テ其職ニ任ゼラレ七月二日東京發途ノヨシ

○支那ヨリ天津ノ事件ニ付佛國エ公使ヲ遣ハセシニ

佛國ニテ之ヲ引受ガルトノ風説アリ

○佛國ニテ索國ノ償金ヲ國內又ハ他方ノバンクヨリ

借財シ皆済スルノ議ニ決シ索國ヨリモ生擒ノ士卒ヲ

殘ラズ佛國へ還セシヨシ

新聞雜誌第六號終

報告

今般工部省ニ於テ鉛版活字製造近日ヨリ賣出ニ相成候間望ノ者ハ同省製作掛リ工可申出候

一海軍圖識三冊 安藝村田樞丈夫譯

右近日尚古堂ニ於テ發兌府下書林ニテ賣出致候間御求可被下候

一新封建論一冊

右靜妙子著述ニテ天下ノ大勢封建郡縣ノ利害ヲ論ビシ書ニテ近日刊行致候

撰者伏テ四方ノ君子ニ告テ奉ル小旨也

官許ノ得ノ新聞紙ヲ刊行ス

其旨意ハ前述べ所ノ如シ但事異聞見目ノ及ハリ者多シ願ク同好ノ人何事ニテ其要々ノ新聞ノ書集ノ小旨及ヒトテ刊行ノ賣弘處ニ寄セ玉ハ次第ニ刊行發兌スル但寄上ノ書目ニ其住處姓名ノ必ス載セ玉フ可シ無名ノ書ハ收テ米入ヒテ無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

切賣買ノ弘等望ニヨリテ出板スル事件

一由地山林家屋舟車等賣買賃借

新發明ノ器及書籍等賣買

一產物器具食品藥劑等以賣買

金銀其外ノ賃借等

一諸船ノ入港出帆積荷ノ物件等

失物尋物等

一古モノ新規賣出等ノ引札

觀セモ集會等ノ引札

右等何レヒ行止三字一度出板價三匁宛同事件一月分ハ八匁五分ニテ月分ハ四匁五分六々月分ハ四匁六々ニテ引受メタシ候

新聞雜誌定價

新聞雜誌定價

一號定價銀 外 當分一ヶ月三號宛出版

一三ヶ月分受候向公定價ヨリ一割半引

一一年分ハ三割引

一六ヶ月分ハ二割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ毎號發兌順序ヲ透セ本局又ハ左ノ賣弘
慶リ相渡申候速方取次賣弘方望ミテ本局ハ引合上御相談可申候

東京小川町今川小路

本局

日新堂

同西國橋山内三丁目

賣弘所

和泉屋金本門

日本橋釘店

和泉屋社造

明治辛未七月

定價四匁

新聞雜誌

第六號 附錄

新封建論



此冊子先般權大史長茨已ニ官許ヲ得テ將ニ刊行
セントス偶支那行ノ命ヲ蒙リテ其舉ヲ果ストヲ
得ス且其時機ニ後レントヲ恐レ因テ我新聞誌中ニ
加ヘ記載セントヲ托セリ蓋シ其意速カニ世ニ公布
スルニ在リ故ニ今般第六號附録トシテ發兌イタセ
リ願クハ四方ノ君子幸ニ流覽ヲ玉ヘ云爾

新聞雜誌第六號附録

明治四年辛未

新封建論

静妙子

天下ノ勢之ヲ百年ノ久ニ變ズ可ク之ヲ一朝ノ頃ニ回
ラス可カラズ理ニ達セス勢ニ明ナラザル者紛然更作
シテ以テ天下ヲ一新セント欲ス則凶莽滅裂常ニ不測
ノ患アリ故ニ古ノ聖人必ズ重固沉深ノ思アリ能天下
ノ勢ニ循テ天下ノ勢ニ逆ハズ其効遲緩ナルガ如シ而
其變決シテ不測ニ至ラズ後ノ君子亦嘗テ天下ヲ經營
セント欲セリ而意速成ニ在リ事ヲ好テ已マズ務テ變
革ヲ行フ理勢ニ逆ヒ人情ニ從ハズ治メントシテ反テ

亂ル是王安石ノ宋祚ヲ短スル所以ナリ竊ニ今日朝
意ノ所嚮ヲ察スルニ事ヲ好ンテ速成ヲ欲シ絶テ老成
持重ノ志ナク妄ニ書生ノ暴論ヲ聽キ天下ヲ郡縣ニセ
ント欲ス夫封建ノ勢ヲ成ス一日ノ故ニ非ズ而天下ノ
人心久已ニ之ニ安セリ今故無シテ之ヲ變シ以テ一人
ニ私セント欲ス我恐クハ滅裂ノ患防グ可カラズシテ
天下ノ亂遏ム可カラザルナリ且ヤ封建ノ良制タル其
効已ニ我邦ニ見ハル必シモ三代ヲ説カズ理ニ達シ
勢ニ昧カラザル者ヲ待ズシテ之ヲ知レリ吾竊ニ今日
ニ觀テ深憂アリ今ノ政ヲ爲ス者ノ如キハ甚朝廷ニ

取ル所ニ非ルナリ余之一答テ曰ク嗚呼何其言ノ誤レ
ルヤ子其一ヲ知テ未ダ其二ヲ知ラザルナリ余曾テ謂
フ郡縣ノ制譬ハ長蛇ノ如シ一處創ヲ受クレハ通身皆
痛ム封建ノ治譬ハ蜈蚣ノ如シ一足折ル、ト雖モ衆足
能走ルト常ニ自ラ以テ知言ナリトス今ニシテ之ヲ思
ニ其見ル所ノ者偏ナルヲ知レリ蓋天下ノ勢小アリ大
アリ天下ノ事内アリ外アリ封建ハ内ヲ治ムルノ小勢
ニシテ外ヲ御スルノ大勢ニ非ズ余熟々古今ノ變ヲ考
ヘ之ヲ天下萬國ノ勢ニ推シ以テ深ク封建ノ害ヲ知ル
丁有リ夫封建ノ内ヲ治ムルニ善キハ其本末相制ス可

ク輕重偏ナラサルニ在リ其事無ニ方テハ天下ノ邦君
各其土ヲ私シ其民ヲ私シ以テ其國ヲ治ム天下ノ人亦
各其土ニ安シ以テ其分ヲ樂ム老子ノ所謂至治ノ世民
其外ヲ知ラズ相往来セズ鷄鳴狗吠其境ヲ出テザルモ
ノニシテ是上古蒙昧ノ風ナリ其人智既ニ開ケ人欲日
ニ長スルニ至テ上ノ威力下ニ達セズシテ尾大掉ハガ
ルノ患興ル國其政ヲ異ニシ君其財ヲ異ニシ天下ノ民
其一本ナルヲ知ラザルニ至ル此時ニ至テハ堯舜周孔
ノ聖出ルト雖モ亦天下ヲ均ス可カラザルナリ故ニ周
公ノ制ヲ以テ後世尾大ノ患ヲ拒ク了能ハズ八百國變

シテセトナリ紛々鬪亂シテ周室降テ小諸侯ニ比ス孔
子衰周二生レ春秋ヲ作り天下ノ諸侯ニ教ヘテ周室ヲ
推尊シ以テ一王ノ法ニ歸セントス公山弗擾佛肸ノ召
ト雖モ猶且汲々之ニ應ゼントス而天下ノ勢終ニ挽回
ス可カラズ徒ニ齊桓一匡ノ切管仲九合ノ力ニ興歎シ
テ以テ其志ヲ見ハセリ孟子亦曰ク今ノ諸侯ハ五霸ノ
罪人ナリ曰ク聖王作ラズ諸侯放恣ナリ又曰ク諸侯其
已ヲ害スルヲ惡ミ盡ク其籍ヲ去レリト故ニ聖人ノ制
ヲ以テ封建ノ末弊唯諸侯相爭ノミナラス必ス王室諸
侯相爭ニ至ル然則封建内ヲ治ムルノ効モ亦終ニ此ノ

如シ其恃ムニ足ラザルヤ知ベシ况蠻夷内ヲ誑リ國家
外患フルニ至テハ封建ノ患害更ニ甚シ周室獵狄戎狄
ノ禍常ニ京畿ニ逼ル其盛時ニ於テモ王師常ニ南征北
伐ノ勞ニ當リ諸侯ノ力能之ヲ外ニ扞禦スルヲ聞カズ
其衰ル幽王驪山ノ下ニ死シ諸侯烽火ヲ望テ救ハズ所
謂藩ト爲リ翰ト爲ルノ功何ニ在リヤ秦天下ヲ郡縣ニ
シ天下ノ力ヲ合シ長城ヲ築キ以テ北胡ヲ防ク漢以來
皆其力ニヨレリ然レ後世夜郎自ラ大トシ治教武政其
道ヲ得ス是ヲ以テ徃々外侮ヲ免レズ是政ノ罪ニシテ
郡縣ノ罪ニ非ズ蓋古今封建ヲ論スル者柳子厚ヨリ善

ナルハナシ其古今ノ形勢天下ノ事理ニ於テ明ナルヲ
火ヲ觀ルカ如シ封建ハ聖人ノ意ニ非ザルナリ天下ニ
公ナルノ端ハ秦ヨリ始ルト云カ如キ其識力卓絶幾
ト二十年間儒生ノ能及フ所ニ非ズ惜クハ唯自治ル所
以ノ者ヲ論シテ未タ外ヲ防ク所以ニ及バザルナリ天
下ノ患ハ一ナラザルヨリ大ナルハナシ兵力一ナラザ
レハ則弱シ財力一ナラザレバ則貧シ十人ノ常人以テ
烏獲ヲ擒ニスベシ中人百家ノ産以テ石崇ニ較ス可カ
ラズ何トナレバ分ル、ト分レサルトナリ封建ノ制ハ
分ル、ノ極ナリ郡縣ノ制ハ合スル、ノ極ナリ蜈蚣ノ能

走ルハ衆足皆其所嚮ヲ同フスレハナリ若足毎ニ其意
ヲ異ニセハ一寸モ動ク可カラズ兩頭ノ蛇一頭ハ東セ
ント欲シ一頭ハ西セント欲ス其行クヲ能ハザル必セ
リ故ニ天下ニ獨立シテ以テ萬國ト抗峙セント欲スル
者ハ必ス郡縣ノ制ニ非ズンバ能ハズ茫々タル兩間國
ヲ立ル者萬ヲ以テ數フ五大洲中獨立ノ國ナラザルハ
無シ未タ曾テ一國モ封建ノ制ヲ以テスル者アラズ歐
羅巴ノ諸國古ハ皆籍土ノ制ナリシモ其今日ノ盛ヲ致
ス所以ハ皆其制ヲ廢セシニ起レリ日耳曼合衆國等ノ
如キハ小國多ク相聚リ其カラ合シ其財ヲ合ス其一邦

ヲ治ルハ各其法制ヲ異ニスト雖モ外國ニ交リ外敵ニ
戰フニ至テハ必ス之ヲ總會或ハ紗領ノ權ニ委子律條
ヲ奉守シテ以テ其總國ヲ保ツ之ヲ聯邦ト云ヒ之ヲ合
衆ト云フ多頭ニシテ猶一頭ナリ且其各邦小ナリト雖
モ亦各一自主ノ大國タリ我邦三百ノ諸藩或ハ一萬
石或ハ三萬石瓜分星散シテ其政力尤令ルカ如キニ
非ス我邦封建ノ制ハ元姦雄天下ノカラ分裂シテ以
テ其一時ノ私ヲナセシニ出ツ是ヲ以テ宰割分裂殆ト
紗紀ナク其尤小ナル者或ハ一郡一邑ニ過ギズ其大ナ
ルモ亦其管轄或ハ數州ニ分在シ或ハ遠ク數百里ノ外

二散セリ其力ノ分ル、亦極レリト謂ベシ而數百年間
 其地其民ヲ私セシヨリ其風氣好尚殊令治法一ノ同キ
 者ナシ殆ト一君主ノ下ニアル者ニ非サルニ似タリ試
 二諸小藩ノ地ヲ往来スルニ一日ノ中十里ノ間其政治
 貨幣貧富強弱風俗言語ノ別其幾變ナルヲ知ラス是
 豈以テ政ヲ為ス可ケンヤ昔北條氏元賊ヲ西海ニ殲セ
 リ是時封建ノ勢未タ成ラズ天下ノ武士皆北條氏ノ命
 ヲ聽ケリ故ニ能令ヲ千里ノ外ニ發シテ偉功ヲ咄嗟ノ
 間ニ奏セリ若藩々相峙シテ各其權ヲ擅ニスルヲ今日
 ノ如クンバ時宗タトヒ身ヲ以テ天下ニ率先スト雖モ

決シテ其力ヲ得ルヲ能ハズ天下無事ノ時藩國分列シ
 仰テ一君ヲ奉シ朝覲會同其儀缺ルヲ無キ外ヨリ之ヲ
 觀レハ森然トシテ禮序アリ三代ノ盛典復今日ニ行ハ
 レ昇平ノ觀之ヨリ羨ナルハ無シト謂ヘリ海内不幸一
 且事アレハ蜈蚣ノ衆足思ヒクニ四方ニ走り天下ノ事
 一トシテ其力ヲ得ルヲナク徒ニ其害ヲ受ルノミ今五
 大洲中獨立不羈ノ國各其自主ノ威ヲ逞シ以テ相下ラ
 ズ是誠ニ大封建ノ形ナリ而未だ昂然獨尊萬國ノ上ニ
 特立シ萬國ノ君主タル者アラス勢固ヨリ分レテ合ス
 可カラザルナリ縱令能萬國ノ主タル者アリトモ萬國

我地球
ヲ粉塵
セハ

ヲ合一シテ以テ我ニ聽カシメ其死命ヲ宰制スルヲ能
 ハザルヤ必セリ是則封建尾大ノ病ニシテ所謂政治多
 頭ナルノ患ナリ若我地球ノ外別ニ一地球アリテ其大
 カ全威ヲ振ヒ以テ我地球ヲ侵奪シ我地球ノ萬國必ズ
 將ニ其力ヲ合セ其財ヲ并セ其自主ノ權ヲ棄テ兄ノ如
 ク弟ノ如ク聯邦トナリ合邦トナリ以テ一君主ノ命ヲ
 聞キ以テ他ノ地球ノ暴害ヲ防ガントス是外ヲ禦クノ
 勢固ヨリ合セザルヲ得サル所ナリ是天下ノ理尤見易
 フシテ天下ノ勢最明ノ易キ者ナリ故ニ國ノ能自立シ
 テ外敵ノ侮ヲ受ケザル所以ノ者ハ其一頭ニシテ多頭

ナラザルヲ以テナリ然則我邦近古未ダ外敵ノ虞ア
 ラザル時ハ封建ノ治固ヨリ不可ナルナシ今日外ニ萬
 國ヲ引受ケ而我國威ヲ墜サ、ラン、欲ス則區々
 封建ノ制豈能天下ヲ維持センヤ或ハ云フ封建郡縣必
 シモ其利害ヲ論ゼズ苟其君主ノ權能天下ニ行ハレ政
 柄其本ヲ失ハズンハ天下皆以テ治ム可シ若其政本立
 ガレバ郡縣ト雖モ亦必分裂シテ其害タル封建ニ異ナ
 ラズト夫天下ノ英君賢辟ハ常ニ世々出テズ徒善ノ以
 テ政ヲ為ルニ足ラザルヤ久シ不幸ニシテ庸主ノ主出
 ル丁アルモ立國ノ法制素定シテ治ヲ為スニ易カラシ

メハ猶以テ天下ヲ維持ス可シ宣王ハ中興ノ主孔子ハ
古今ノ賢而衰周ノ業ヲ興ス丁能ハズ晋ノ元帝宗ノ高
宗其才中人ニ及バザレモ亦能一隅ヲ存守シテ數百年
ノ祚ヲ永フス是制國ノ法異ニシテ外ヲ防グノ便ナル
ハ郡縣ヲ以テ良トスルガ故ナリ今 朝廷ノ意其封建
ニ在ルカ其郡縣ニ在ルカ吾儕小人ノ得テ窺フ處ニ非
ズ且數百年ノ勢之ヲ一時ニ變ゼントスル亦易々タル
ニ非ズ縱令 朝廷之ヲ變ズルニ意アルモ亦必歲月ノ
久ニ期シテ之ヲ一朝ノ頃ニ求ム可ニ非ズ但天地ノ氣
運既ニ開ケ五洲ノ間甚近ニ至テハ前百年我 邦ノ外

唯「支那朝鮮荷蘭」アルコトヲ知リシ世ト時勢大ニ同シカ
ラス只我 邦ノミヲ墨守シテ小安ニ安ズ可カラザル
ハ凡志氣アル者ノ皆知ル所ナリ又我貧弱孤寡ノ勢ヲ
誇大シ空拳ヲ振テ以テ故ナク外國ヲ敵視ス可カラザ
ルモ三尺童子ノ能辨ズル所ナリ舊幕府政ヲ失ヒ 國
體ヲ辱シメシヨリ天下幾ド亂レ大政終ニ 朝廷ニ歸
シ復古ノ業成ルニ及テハ開物成務ノ任内治外交ノ責
固ヨリ之ヲ他人ニ諉スルコトヲ得ズ必ズ將ニ萬國ニ對
峙シテ以テ我 國威ヲ扶定シ全國ノ人民ヲ撫安シ以
テ 天祖付託ノ 神州ヲ保全スルコトヲ謀ラントス舊

幕府政ヲ預ル時ト雖モ 朝廷素ヨリ國家ヲ憂ヘザル
 丁ナシ況天下内外ノ政小トナク大トナク皆 朝廷ニ
 歸スルニ至テハ其憂ノ大ナル亦必昔ニ倍セリ故ニ
 朝廷天下ノ政ヲ親シ玉フハ苟モ以テ權ヲ我ニ収ムル
 ノミニ非ズ徒ニ以テ 神州ノ安ヲ謀ラントスルノミ
 ナリ故ニ 朝意ノ郡縣ニ在ルト否ルトハ姑ク論セズ
 唯天下ノカヲ一ニシ天下ノ留ヲ一ニシ今裂ノ患ナク
 一致ノ心ヲ合セ因循ノ舊習ヲ洗ヒ開明ノ新境ニ進
 徧頗固陋ノ淺見ヲ破リ不羈獨立ノ大模ヲ立テ萬國ニ
 及バザル所以ノ者ヲ補益シ萬國ニ度越スル所以ノ者

ヲ維持セントス是其著眼ノ處外ニ在テ内ニ在ラズ而
 其著手ノ處ハ内ヲ主トシテ外ニ及ボス皆我 國威ヲ
 全シテ 國體ヲ辱シメザルヲ求ムルノ外豈他事アル
 ンヤ故ニ親政以來孜孜々屹々トシテ至治ノ速ニ興ルヲ
 期望ス天下七百年來人ノ中風ヲ病メルが如シ故ニ今
 日ノ事百廢皆興ラザル丁能ハズ五大洲方ニ日新ノ世
 ニ屬ス故ニ我 邦ノ事亦古ニ無シテ今ニ創メザル丁
 能ハズ而外人徒ニ其紛々更作スルヲ病ムモノハ其故
 ヲ思ハザルナリ之ヲ譬ルニ夙興夜寐シテ其業ヲ務ム
 ル者ニ勸メ其ヲシテ其四肢ヲ怠タリ只仰臥セシムル

カ如シ亦誤ラズヤ而復古以來天下ノ歩寸進シテ寸退
 シ未其故處ヲ離レズ是其故何ソヤ 朝廷ノ力極マ
 所アリ天下ノ心偏スル所アルナリ我試ニ其梗概ヲ論
 ゼン天下ノ力固ヨリ大ナリ而其分ル、ヨリ弱ハナシ
 天下ノ富固ヨリ衆ナリ而其分ル、ヨリ貧ナルハナシ
 今百金ノ家十家アリテ各其業ヲ營センニ千金ノ家一
 家ノ其力ヲ逞スルニ如カズ一萬石ノ國十國ニテ各其
 兵ヲ練ランニ十萬石ノ國一國ノ其功ヲ速ニスルニ如
 カズ蓋其財分レバ其力ノ及ブ所其量ニ盈ル丁能ハザ
 ルナリ今三百ノ藩天下ヲ分テ而 朝廷僅ニ其一ニ居

ル之ヲ諸藩ニ比スレバ稍大ナルノミ 神州ノ富二千
 萬石ニシテ 朝廷ノ有スル所七百萬石ニ過キズ其千
 餘萬石ハ分裂シテ數百トナリ諸藩ノ士族マタ其七百
 萬石ヲ食セリ是天下ノ富 朝廷諸藩ト士族ト之ヲ三
 分スルナリ戊辰ノ年薩長肥土ノ四藩首トシテ版籍ヲ
 奉還セシヨリ天下ノ諸侯ヲ改メテ藩々ノ知事トシ府
 縣ト并立テ三治一致ノ名アリ是天下ノ富ト天下ノ力
 ト悉ク 朝廷ニ歸セシカ如シ而其實ヲ察スルニ猶依
 然タリ三百藩ノ財ハ皆三百藩ノ用ニ供シテ 朝廷其
 一分ヲ供スル丁能ハズ諸藩其官ヲ世襲シ其士民ヲ私

シ其貨財ヲ私シ其兵力ヲ私シ其政令ヲ私シ其制度ヲ私ス 朝廷ノ權其及ブ所府縣ニ限リ藩廳ニ至テハ只其皮面ノミ其實ハ猶自主自治ノ侯國ナリ故ニ 朝廷一號令アル毎ニ藩々奉承セザル丁ナシ而未必シモ行ハレズ 朝廷天下ノ人才ヲ拔キ天下ノ官ニ任セント欲ス而諸藩猶世襲ス 朝廷天下ノ富ヲ以テ天下ノ有用ヲ養ハント欲ス而諸藩猶世祿ナリ 朝廷天下ノ兵ヲ強セント欲ス而諸藩世祿ノ士皆兵ナリ兵ノ名アリテ兵ノ實ナリ萬ニ滿ルノ士アルモノモ戰士ハ唯其二三分ニ過キズ其七八分ハ徒ニ仰食スルノミ 朝廷別

ニ士農工商ニ募リ任ニ勝ル者ヲ取リ以テ節制ノ兵ヲ編セントス而之ヲ養ノ資ナシ七百萬石ヲ以テ天下虚名ノ兵ヲ養ヒ而其實戰ニ任スル者幾何ナシ且其訓練ノ術給養ノ方亦藩コトニ其法ヲ異ニシ能一定スル丁ナシ不幸ニシテ外侮アラバ 朝廷其何ヲ以テ國ヲ保タン而天下ノ士覲然七百萬石ヲ坐食シ以テ少シクモ愧ズ是豈其本心ナランヤ諸藩ノ制然ラシムルナリ 朝廷天下ノ地租ヲ一ニセント欲ス諸藩ハ則知ル可カラズ 朝廷天下ノ田制ヲ一ニセント欲ス諸藩ハ則知ル可カラズ 朝廷天下ノ官制ヲ一ニセント欲ス諸藩

ハ則同ジカラズ 朝廷天下ノ貨幣ヲ一ニセント欲ス
 諸藩ハ則同ジカラズ唯同シカラザルノミナラズ或ハ
 又偽造質鑄シ其負欠ヲシテ 朝廷ニ歸セシム 朝廷
 天下ノ學制ヲ一ニセント欲ス而諸藩各其制ヲ以テス
 朝廷天下ノ刑法ヲ一ニセント欲ス而諸藩各其法ヲ以
 テス是天下ノ富強ヲ致ス所以ノ者皆 朝廷ノ自ラ制
 スル丁能ハザル所ニシテ一切ノ制度律令分裂シテ均
 シカラズ其尤天下ニ須要ナル者ハ財ト兵トニ在リ而
 朝廷之ヲ如何トモスル丁無シ嗚呼 朝廷タル者亦難
 カラズヤ或ハ云フ財諸藩ニアリ 朝廷亦其富ヲ享ク

兵諸藩ニアリ 朝廷亦其力ニ頼ルト是亦迂儒俗學ノ
 見ナリ財 朝廷ニアリ諸藩亦其利ヲ享ク兵 朝廷ニ
 アリ諸藩亦其力ニ頼ル可キ耳蓋兵財ハ天下公共ノ利
 ナリ而其政本ハ必ズ之ヲ一ニ歸セザル可カラズ試ニ
 思ヘ兵ノ一事一日モ天下ニ無カル可カラザル者今也
 有用ノ財ヲ費シ天下無用ノ人ヲ養ヒ強テ之ニ名ケテ
 兵ト云フ兵ノ要ハ衆ニ在ラズシテ精ニ在リ諸藩ノ兵
 衆ナラザルニ非ズ而舊染去ラズ姑息例ヲナシ其能節
 制ニ入り實用ニ供ス可キ者アル丁少シ而兵ノ名ヲ以
 テ兵ノ食ヲ食ス 朝廷之ヲ沙汰精選スル丁能ハズ又

別ニ精兵ヲ募ルノ食ナシ天下一日モ廢ス可カラザル者ニシテ而其無用ヲ知レテ改ムルヲ能ハズ是其本ヲ一ニセザルノ弊獨 朝廷其害ヲ受ルノミナラズ諸藩天下亦必其病ヲ被ランノミ之ヲ觀テ以テ其他ヲ推ス可シ 朝廷富強ヲ求ムルノ意是ノ如ク其勉メタリ而天下未嘗之ヲ奉養スルヲナシ是 朝廷ノ力極マル所アルナリ何ヲカ天下ノ心偏ナリト謂フ天下ノ人古今ノ形勢ヲ察スルヲ能ハズ 朝廷徒ニ新ヲ好テ以テ紛更ヲ喜トシ其舊習ニ汙染シ其偏見ニ固著シ唯其身家ヲ私シテ國家ノ憂ヲ憂ルヲ知ラズ天下ハ猶人身ノ

如ク人身ノ尤重キモノ頭ヨリ重キハナシ苟モ頭腦病傷セバ四肢百骸皆動クヲ能ハズ 朝廷ハ腦ナリ天下ハ四肢百骸ナリ今疾病外邪來攻ムルノ秋ニ方リ 朝廷ノ頭腦ヲ保護スルヲ能ハズンバ四肢百骸其能獨存セシヤ詩ニ云ク兄弟牆ニ闕ケドモ外其侮ヲ禦クト是手足平生ノ事ノミ國家ノ事ニ至テハ外侮多ク内闕ニ乘シ指顧ノ間變故百出之ヲ禦ガント欲スルモ能ハズナシ況外侮方來ルノ時ニシテ 君臣ノ間尚其平時ノ私心ヲ存シ其國家已ニ傾クニ至テハ則内ニ闕カン欲スルモ猶得ベカラズ況能外其侮ヲ禦ガンヤ舊幕府

朝廷ヲ奉セザル時ニ當リ天下二三ノ藩其國ヲ固守シ
テ以テ 朝廷ヲ援ク是時ニ於テ 朝廷二三ノ藩ニヨ
ツテ以テ重トス何ゾヤ其 朝廷ニ抗スル者國內ニ在
レバナリ是ヲ以テ二三ノ藩其國ヲ以テ 朝廷 安危
ヲ爲スコヲ得タリ幕府既ニ除キ 朝廷大政ヲ握リ外
萬國ニ對スルニ至テハ二三ノ藩以テ 朝廷ヲ重トス
ルニ足ラス 朝廷亦二三ノ藩ニヨツテ以テ天下ノ重
ト爲ルヲ能ハズ必ヤ天下ノカヲ并セ合シテ一體トナ
ルニ非ザレバ以テ天下ヲ維持ス可カラズ何トナレハ
我ト對立スル者國內ニ在ラズシテ國外ニ在レバナリ

是 朝廷ノ意厚薄アリ二三ノ藩輕重アルニ非ズ内外
ノ勢大ニ變シテ天下ノ局面同ジカラザレバナリ故ニ
今日我自主獨立ノ威ヲ全スルヲ能ハズシテ 日本政
府ノ力屈スルヲアレバ則日本ノ國皆其病ヲ受ク而今
ノ人獨其富ヲ私シ其利ヲ享ケシト欲スルモ其能獨り
私享ス可ケン哉四藩ノ版籍ヲ奉還セシハ深ク天下ノ
大勢ニ觀ルヲ有ルガ如シ吾其天下ニ率先シテ 百年
ノ弊習ヲ洗ヒ大ニ 朝廷ヲ輔翼シ以テ 國威ヲ更張
センコトヲ望ム而二三ノ藩其之ニ繼クノ偉舉ア
ルヲ見ズ去年來山形南部ニ藩断然知事ヲ辭シ其藩ヲ

廢セント請ヒ和歌山ハ大ニ其國ヲ變シ知事其城ヲ出
 テ私第ニ返キ祖先ノ廟ヲ毀テ木主ヲ家廟ニ移シ士農
 工賈ヲ編伍シテ其力役ヲ同フシ人才ヲ商賈醫卜ニ拔
 テ之ヲ廟堂ノ上ニ列ス苗木ハ其士族悉ク世祿 辭シ
 テ農籍ニ歸シ長岡亦其藩ヲ廢シ鞠山小濱ハ其藩ヲ并
 ス此數藩ノ如キ其爲ス所深淺ノ別アリト雖モ要スル
 ニ皆能時勢ヲ量リ公私ヲ辨シ 朝廷ノ必立サル丁ヲ
 得ス政府ノ必援ケザル丁ヲ得ザル所以ニ注目スルモ
 ノニシテ其公道ヲ振擧スル實ニ天下ヲ聳動スルニ足
 レリ予竊ニ惟フ天下ノ人皆此心ヲ以テ心トセバ天下

ノ事必シモ百年ノ久ヲ待ズシテ富強ノ實以テ興ル可
 シ近頃高知藩其士族文武ノ常責ヲ免シ之ヲ民族ニ等
 フシ祿券ヲ制シテ士族ノ家産トナシ兵ヲ士農工賈ノ
 内ニ選シ士族ノ祿ヲ裁シテ之ヲ養ヒ其國ヲ丕變シテ
 以テ天下ニ及ボサントス吾是ニ於テカ版籍奉還ノ舉
 果シテ虚シカラザルヲ信スルナリ嗚呼五洲萬國碁布
 林立各其力ヲ磨勵シテ以テ不羈獨立ノ威ヲ行ント
 ス近時歐洲亂ヲ生シ法朗西普魯士ノ戰既ニ久シ或ハ
 傳フ「俄羅斯土耳其」ノ釁亦既ニ開ケリト歐洲ノ形勢五
 洲ニ關係ス海島ノ變革幾ト測ルベカラズ是何等ノ時

ゾヤ太政復古ノ召徒ニ美ニシテ太政復古ノ實未タ舉
ラズ而天下ノ人漠然トシテ越人ノ秦人ノ肥瘠ヲ見ル
ガ如シ是皆天下ノ心偏ナル所アルガ故ニ非ズヤ之ニ
加ルニ眼光豆ノ如ク一隅ノ見解ニ局シ天下ノ里勢ヲ
知ラズ古今ノ變通ヲ知ラズ大道ヲ見テ以テ小トシ公
義ヲ見テ以テ私トスル者猶海内ニ蔓シ或ハ鎖國攘夷
ヲ唱へ或ハ今ノ世ニ居テ古ノ道ニ反ラントス爾輩附
和以テ蚩々ノ氓ヲ惑ハス蚩々ノ氓猶怒ス可シ天下ニ
抗顔シテ人ノ尊貴ヲ受ケ天下ト休戚ヲ同スベキ者モ
或ハ其煽動ヲ免レズ 朝廷ノ盛意何ニ在ルヤ 神州

ノ國勢如何ナルヤ時務ノ當ニ為スベキ如何ナルヤ之
ヲ措テ知ラズ却テ 朝廷ノ為ニ無限ノ妨害ヲ醸成シ
徒ニ 神州ノ元氣ヲ傷ツク唯其煦々ノ偏見ヲ信シテ
而天運時勢ノ已ニ暗ニ遷リ其身ハ遙ニ其後ニ落々々
ルヲ覺ヘズ其愚亦憫ム可シ其國ヲ謀ルノ心ヲ譬ルニ
海螺ノ其蓋ヲ閉テ以テ人ノ害ヲ遠ク可シト思ヒ而其
已ニ枯魚ノ肆ニ上ルヲ覺ヘザルカ如ク其自ラノノニ
スルノ行ヲ譬ルニ黠鼠ノ其巢穴ヲ營シ而柱ノ根ヲ齧
ミ柱仆レテ身亦死スルヲ知ラザルカ如シ吾願クハ
日本ノ國海螺トナル丁無ク 日本ノ人黠鼠トナル丁

ナリ 全国ヲ視テ以テ一身トシ其疾痛疥癢ヲ體認シ深
ク 朝廷ノ至意ヲ奉シ 朝廷モ亦自尊ノ心ヲ降シ天
地ノ公道ヲ踐ミ四目ヲ明ニシ四聰ヲ達シ八面洞開一
視同仁誠ヲ推テ以テ人ノ腹中ニ置キ威ヲ養テスレ國
ノ綱紀ヲ振ヒ苟且スルコトナク詭遇スルコトナク天下ノ
必然ヲガルヲ得ザル所以ヲ明示シ天下ノ必然ヲガル
ヲ得ザル所以ヲ確守シ動搖セズ間斷セズ小康ヲ足レ
リトセズシテ以テ萬國ニ對抗スル所ノ者ヲ求メ 上
下心ヲ一ニシ大ニ天地ヲ經緯シ我 天祖天神ノ休命
ヲ迎ハシコトヲ昔ヤ趙ノ武靈王胡服シテ其國ヲ強フス

今 日本ノ人亦焦膽苦慮シテ其心ヲ設クルコト此ノ如
ク 朝廷ノ意其郡縣ニ在ルカ封建ニ在ルカヲ問ハズ
只封建ノ害タル所ト郡縣ノ利タル所トヲ熟知シ天下
ノカヲ一ニシ天下ノ財ヲ一ニシ其身家ノ私ヲ去リ其
偏固ノ心ヲ破リ 日本政府ノ能樹立シテ以テ自主自
治ノ威ヲ全フスルヲ謀リ天下ノ人人々其力ニ食ミ游
食ノ徒ナク無用ノ事ナク兵精ク財足リ物産日ニ多ク
機工日ニ新ニ學術日ニ進ミ智識日ニ開ケ以テ 皇化
ヲ助ケテ之ヲ萬世ニ流シ之ヲ海外ニ輝サンコト是固ヨ
リ 朝廷ノ至意ナリ是固ヨリ日本ノ急務ナリ是固ヨ

日本六ノ義ナリ是固ヨリ 日本ノ國體ナリ

跋

静妙子ハ余其何人ナルヲ知ラズ友人偶是書ヲ市ニ
獲テ以テ余ニ贈ル余其立意行文ノ凡ナラヤルヲ見
ル想ニ人ノ疝ヲ病テ巳ノ頭痛トナシ憤悒不平意一
世ヲ可トセズ蓋亦能言テ能行ハザル者歎然其痛
ナク癢ナク雷同苟合ノ徒ニ非ザルヲ知ル可シ為メ
ニ一本ヲ手寫シ之ヲ案頭ニ置キ將ニ同好者ト之ヲ
賞シ且其人ヲ物色セントス庚午ノ殘冬幽玄菴蠟梅
花下白ヲ浮テ朗誦シ遂ニ其後ニ書ス三洲生

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ゲ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス

其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バサル處多シ願ク同好ノ人
何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スヘシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

一田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借 一新發明巧器及書籍等ノ賣買

一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買 一金銀其外ノ貸借等

一諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等 一失物尋物等

一店ヒラキ新規賣出等ノ引札 一觀セモノ集會等ノ引札

右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月分ハ八匁五分

三ヶ月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌定價

一號定價銀二匁 當分三月三號宛出板

二三月分引受候向定價ヨリ一割半引

一ヶ月分ハ三割引

六月分ハ二割引

右定通約定前金受取候上毎號發兌順序ヲ逐々本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望々人ハ本局へ引合上御相談可申候

本局

東京小川町今川小路

日新堂

賣弘所

同西國横山町三丁目

和泉屋金右門



明治辛未七月

定價二匁

新聞雜誌

第七號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナリニ我未ク見聞ヒ見テ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
樂シキハナシ見聞ノ快キヨ書クハ心魂ニ知曉シテ疑懼ノ多ク意ニ我ヲ
是トシ人ヲ非トスル地アリテ自カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
大政ノリテ知ラテ却リ疑非ノ者モアレシカクテ八達ヲキ世ニシカヒ
ナシ今 官許ノ受テ新聞松局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
又、里巷ノ瑣事ノ外 異聞ヲ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國中
ノ新知ノ開ク熱ク固シ頑古心僻ナル事ヲ棄ンテ新ニ開キ以テ
諸君ノ知ラテ速ク察シ天地間ニ我意ヲ宣フ事ヲ
喜可キ事多ク唯 眼目ノ見ルハ何人タルヲ免レト夏虫氷ヲ疑フ笑者一知
王ノ復古ノ人ハ此ノ世ニ負カシクハ

新聞雜誌第七號 明治四年辛未

鹿兒嶋山口高知佐賀四藩ノ知事へ勅語ノ寫

汝等曩キニ大義ノ不明ヲ慨キ名分ノ不正ヲ憂ヘ首ニ
版籍奉還ノ議ヲ建ツ朕深ク之ヲ嘉ミシ新ニ知事ノ職
ヲ命シ各其事ニ從ハシム今ヤ更始ノ時ニ際シ益々以
テ大義ヲ明ニシ名分ヲ正シ内以テ億兆ヲ保安シ外以
テ萬國ト對峙セニトス因テ今藩ヲ廢シテ縣ト爲シ務
ムテ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無實ノ弊ヲ除キ更ニ綱紀
ヲ張り政令一二歸シ天下ヲシテ其向フ所ヲ知ラシム

汝等其レ能朕カ意ヲ體シ翼賛スル所アレ

名古屋熊本徳島鳥取四藩ノ知事へ勅語ノ寫

朕惟フニ方今内外多事ノ秋ニ際シ断然其措置ヲ得天下億兆ヲシテ其方向ヲ定メシムルニ非ズンハ安ソ能ク宇内各國ト並立シ以テ我國威ヲ皇張センヤ是朕カ霄旰憂慮スル所ナリ曩ニ汝等カ建議スル所互ニ異同アリト雖氏之ヲ要スルニ深ク從前ノ弊害ヲ鑑ミ遠ク將來ノ猷謨ヲ畫ス是汝等カ衷誠之所致朕之ヲ嘉シ將ニ施設スル所アラントス汝等更ニ能ク朕カ意ヲ體シ各其所見ヲ竭セヨ

廢藩爲縣詔書ノ寫

朕惟フニ更始ノ時ニ際シ内以テ億兆ヲ保安シ外以テ萬國ト對峙セント欲セバ宜ク名實相副ヒ政令一二歸セシムベシ朕曩ニ諸藩版籍奉還ノ議ヲ聽納シ新ニ知藩事ヲ命シ各其職ヲ奉ゼシム然ルニ數百年因襲ノ久キ或ハ其名アリテ其實舉ラザル者アリ何ヲ以テ意兆ヲ保安シ萬國ト對峙スルヲ得ンヤ朕深ク之ヲ慨ス仍テ今更ニ藩ヲ廢シ縣ト爲ス是務テ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無實ノ弊ヲ除キ政令多岐ノ憂無ラシメントス汝群臣其レ朕カ意ヲ體セヨ

○七月十四日大中小各藩ノ知事本官ヲ免セラレタリ
○今般諸藩廢セラシニ付テハ元知事ノ面々御用有之
一同九月中歸京ノ旨東京府ヨリ可相達トノ命アリ

七月十四日依願免本官
麁香間祇候被仰付

大納言德大寺實則
大納言嵯峨 實愛

任參議叙後四位

板垣 正形

任參議

大藏大輔大隈重信

任外務卿

大納言岩倉 具視

免本官

外務卿澤 宣嘉

任民部卿

民部大輔大木喬任

任民部大輔

民部少輔井上 馨

任兵部大輔

兵部少輔山縣有朋

正二位德大寺實則從二位嵯峨實愛、御沙汰ノ寫
御維新以來綱紀更張御施設相成候處方今内外之形勢
前途之事業不容易深ク 御配慮被為在今般一層御整
革被遊候御趣意ニ付國事御諮詢被為在候間無忌單延
言宏謨ヲ可奉裨補候事

○今般藩ヲ廢シ縣ヲ置レタルニ付テハ追テ御沙汰之
アルマテ大參事以下是迄ノ通り事務取扱可致トノ命
アリ

○今般辨官ヲ廢セラレタリ付テハ諸願子カヒウカヒトケ伺届等スベ總テ其關係ノ諸官省へ直ニ可差出トノ命アリ

太政官出仕被仰付

坊城從三位

同

田中從五位

同

土方從五位

同

江藤從五位

外務省出仕被仰付

山口從五位

御用有之東京滞在被仰付

多久從五位

同

長松從五位

同

林從五位

同

内田從五位

同

中村從五位

○刑部省彈正臺ヲ廢セラレ司法省ヲ建ラレタリ

○大藏省内通商司ヲ廢セラレタリ

○兵部省内へ軍醫寮ヲ立ラレタリ

○名優澤村田之助兩足ヲ失ステ後技藝愈進ニシテ普ク知ル所ナリ近頃マタ一手ヲ失ヒシ由殊ニ恐ム

バシ其病ニ罹リシ始メ醫師之ニ諭シテ曰ク此病症治スル丁難ケレバ切斷セザルヲ得ズ憶フニ之ヲ切斷セバ忽テ廢業ニ至ラン宜シク切斷前一世代ノ技ヲ

下月...

四

演シテ後來ノ生計ヲ為スベシト勸メシニ田之助其厚
意ヲ謝シ且ツ答テ曰ク生計ノ了ハ既ニ畧之ヲ了セリ
一世一代ノ技ニ至テハ悉ク手足ヲ失フテ後ニ務メシ
ト思ヒ既ニ一手段ヲ謀リ設ケタレバ其期ニ至ラバ一
覽ヲ勞シ其ガ技ノ手足ニアラザル了ヲモ知ラセ玉
ト云ケルトゾサスガハ有名ノ俳優ナリ志ノ厚キ氣力
ノ強キ百廢屈セズ世ノ諸學ニ志ス人モカ、ル心膽ア
リタキモノナリ

○宇宙間ニ於テ學藝ノ盛ナル日耳曼諸國ノ石ニ出ル
ハナク醫學ニ於テハ殊ニ然リ故ニ大學東校ノ教師ハ

彼ノ普魯士國工被仰越シニ彼國政府ニ於テ第一等醫
官ニユルレル氏第二等醫官ホフマニ氏ノ西六家ヲメ
我邦ニ來サン了ニ決セシ處彼國佛國トノ確執發リ
彼ノ二氏セ亦難ニ赴キ來期遅延セシガ彌今月八日來
著シタリ抑東校御創立以來醫學ノ進歩セシ了太々盛
ナルハ吾人皆知ル所ナリ況ヤ此ニ大家來著シ且近
參著ノ日耳曼醫官シモンズ氏之ヲ補佐シテ以テ内ハ
數百ノ生徒ヲ教育シ外ハ疣痼痼ヲ療セバ久年ヲ經
ズシテ吾國ノ醫學大ニ興進スルノミナラズ萬民ノ幸
福何カ之ニ若シ 天意ノ至仁感戴セザル可ケンヤ

○福岡藩實札事件ニ付大參事立花増美矢野安雄權大
參事小河愛四郎司計局判事三隅傳人少參事徳永織人
斬罪ニ處セラレ其餘關係ノ人數モ流徒等夫々御處置
相成タルヨシ

○長大學少丞支那天津ヨリ贈リタル書中ニ云フ方今
支那全權宰相李鴻章ナルモノ頗ル有名ノ人材ニテ自
ラ天下ノ重ヲ任シ大ニ國威ヲ起サント盡力ヲナシ當
時我邦公使應接ノ爲天津ニ出張セリ又近頃生徒百
餘人ヲ選擇シテ西洋ニ游學ヲナサシメシト云

○七月十五日ヨリ同廿九日限り東京尋留人取調コレ

アルヨシ

○昨午歳山口藩廳ニテ其管内南吉敷部里正林勇藏ニ
令シテ米利堅ヨリ出ル雀糞ヲ平年出来ムラナキ田地
ニ分畧コナシ試験ヲナサシメシニ左圖ノ表ノ如ク出
来増ニナリタリ尤六月土用初日ノ頃用ヒシ故時節モ
後レ十分ノ効トハ云ガタシ當未年ハ上田一反ニ懸目
三貫目中田一反ニ懸目五貫目下田一反ニ懸目十貫目
宛五月ニ之ヲ用ヒシガ當節ノ模様ニテハ功效モ確ト
相見ヘタリ是マテ鮮メ粕等ヲ田畠最上ノ肥トナセシ
ニ鮮メ粕十貫目用ヒシ處ニ雀糞三貫目ニテ其出来増

的當セリサスレバ鮮メ粕三倍ノ功能ト云ベシ昨冬神
 戸キテ雀糞ノ價百斤ニ付金四兩ナリ蒸氣船一艘分注
 文致セバ三元ヨリ三元二分五厘位ニテ持来ル由世人
 試ミテ其功驗ヲ識リ農事ニ施シタキモナリ

- 一番一畝
- 二番一畝
- 三番一畝
- 四番一畝
- 五番一畝

雀糞懸目一 貫目入 米二斗九升五 三勺ヲ得 一倍六朱餘 出来増ナリ	同七百目入 米二斗八升七 合一勺ヲ得 一倍餘ノ出来 増ナリ	同五百目入 米二斗一升三 合ヲ得 四斗八朱餘 出来増ナリ	同三百目入 米一斗九升四 合七勺ヲ得 三分六朱餘 出来増ナリ	雀糞不入 米一斗四升三 合ヲ得
--	---	--	--	-----------------------

○高知藩星野權三郎建白書ノ略ニ曰ク方今曠原荒野
 ヲ開拓シ土地ヲ廣メ貧民ヲ賑ハシムルト是御仁政ノ
 第一急務ト奉存候 皇朝往昔ヨリ屠兒ト唱ヘ別種ニ
 イタシ交際セザル者アリ其始外國ヨリ渡来シ生産不
 詳ニヨリ賤シメ候由今考ルニ人間同類ニテ彼全ク禽
 獸ニモ非ズ何ゾ之ヲ賤シメ愚昧ニ陥ルノ理アラン
 ヤ彼ニモ豪富有徳ノ者アリ是ヲ擧テ其藩其縣ノ荒地
 ニ移シ自カヲ以テ開拓ヲ爲シメ収納五載ヲ免シ期年
 ニ至リ其成効ヲ檢シ御仁恕ノ御詮議ヲ以テ平民ノ末
 席刑ニ加ヘラル、御新令御布告ニ相成候ハ、彼等

天恩ノ辱キヲ拜泣シ獲生ノ思ヒヲナシ一命ヲ抛キ盡
カイタスベクサスレバ四方ノ荒原平蕪年ヲ經バシテ
開拓シ物産ヲ増シ牛馬ヲ蕃畜シ文明開化ノ御仁風益
四海ニ偏ク相及可申云々

○今般牽連セル東洋電信線長崎ヨリ上海マテ我里數
五百里ノ海上ヲ三ニユート十分ノ三ノ百ニ間ニ達シ
又同所ヨリ英國倫敦マテハ五千四百餘里ノ海陸經所
十ヶ所餘ナルニ僅カ五時ニテ往復ヲナスニ至ルト云

報告

○東京池之端仲町ニ坂屋守田治兵衛トテ九代連續セ
ル藥舗アリ此家ニ近來一種ノ奇藥ヲ發明セリ諸病ニ
効アルヲ以テ是ヲ寶丹ト號ス頗簡便ニシテ實ニ稀代
ノ良劑ナリ今年正月大學東校へ其藥方ノ檢査ヲ願テ
第一番ノ免許ヲ受シヨリ愈コレヲ貴重モノ日ニ盛ナ
リト云カ、ル賣藥スラ原ソノ發明ノ効ニヨリテ大ニ
幸福ヲ得シナルベシ

一英國軍陣方彙一冊 片山先生譯補
右私店ニ於テ發兌賣弘致候間御求ノ程奉希候

東京馬喰町三丁目

鳴村屋利助

今般工部省ニ於テ銘版活字製造近日ヨリ賣出ニ相成候間望ノ者ハ同省製俵掛リ上可申出候

一海軍圖説三冊 安藝村田樞丈夫譯

既出

新封建論一冊

右靜妙子著述ニテ天下ノ大勢封建郡縣ノ利害ヲ論ビシ書ニテ新聞誌第六號附録トシテ發兌致候間御求奉願候

日新堂

撰者伏シテ四方ノ君子ニ告奉ル本局既ニ官許ノ得テ新聞紙ヲ刊行ス其旨意ハ前述ノ如ク且奇事異聞且目ノ及ハル處多シ願クハ同好ノ人何事ニテ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ヒ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉ハ次第ニ刊行發兌スル但寄玉ノ書付ニ其注處姓名ヲ必ス載セ玉フ可シ無名ノ書ハ敢テ採入スル根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一 切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

一 田地山林家屋舟車等賣買貸借 一 新發明ノ器及書籍等賣買

一 產物器具食品藥劑等一切賣買 一 金銀其外ノ貸借等

一 諸般ノ入湊出帆積荷ノ物件等 一 失物尋物等

一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札 一 觀セモヲ集會等ノ引札

右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件一月分ハ八匁右三々月分ハ廿四匁五分六々月分ハ四十六匁ニテ引受イタス

新聞雜誌定價

一 締定價銀 二分 當分一ヶ月三號出版

一 三ヶ月分受候向定價ヨリ一割半引

一 一々年分ハ三割引

六月分ハ二割引

右定通約定前金受取候上六毎號發兌順序ヲ逐々本局ニ在リ賣弘
處ヨリ相渡申候速方取次賣弘方望ミ人ハ本局ハ引合上御相談可申候

本局

日新堂

東京小川町今川小路

同西國横山町三丁目

賣弘所

日本

泉屋金工門

和泉屋壯造

明治辛未七月

定價二分

新聞雜誌

第八號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗ニテ疑恠ムヲ多ク竟ニ我ヲ
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カ、ル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
大政ノサマヲヒ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢ガタニ生レシカヒ
ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スハ我 日本國中
ノ人々ノ新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ニテナリ 頑ハ此冊子
ヲ読ムヲ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚可ク
喜可キ事多ク唯 隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫氷ヲ疑ノ笑有リト知
至ハサテコソ 復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ヘケレ

新聞雜誌第八號

明治四年辛未

丹波國山家綾部 柏原福知山園部 龜岡篠山七縣在
京參事一同ヨリ合縣歎願書ノ寫

廢藩為縣ノ御趣意ヲ奉戴仕候處區々ノ小縣非無鎖碎
之憂太政ノ御妨ニ相成候ニ付丹波七縣申合セ合縣ノ
儀奉願候從來藩債等ノ取調臣等關係罷在候儀ニ付追
テ明細書ヲ以テ言上可仕候區々ノ微哀御採用奉願候
云々

池田元鳥取藩知事上書ノ寫

伏惟ニ 太政御維新ノ始戊辰爭亂ノ後賞功酬勞亂罪
 討賊天下ノ方向一定致候仰キ願クハ於此時廟議ヲ盡
 シ速ニ御基礎ヲ被為立度一時目前ノ論ニ不流前途ノ
 御目的ヲ被定一度發表ニ至レハ再度御改無之様仕度
 奉存候今日御基礎御確定無之節ハ大勢瓦解人心反覆
 治亂ノ機今日ニ決シ可申ト奉存候臣不憚忌諱其一二
 ヲ論ス第一政體三治一途ニ非ズ府縣ト各藩ト區別差
 等アリ府縣ノ弊ハ旧政府代官ノ汚習ニ混淆スル故ニ
 政令ノ藩政ニ不及モノアリ且縣ハ太政官中被官ニ
 メ民部大藏兩省ノ指揮細鎖ナル故ニ煩シク却テ民情

ニ背ク者アリ各藩ノ弊ハ鎖國ノ陋習猶存シ領主ノ稱
 呼總ニ知事ト改ルカ如シ而メ封土奉還ノ實未舉其源
 因ヲ尋ルニ 太政官ノ各藩ヲ待ツ霸者ノ侯伯ヲ待ツ
 ガ如シ是レ無他藩ハ大小輕重兵力ノ有ル故ナリ府縣
 ノ年貢大藏省ニ収ム而メ藩唯海軍資金ヲ奉ル舊幕府
 ノ舊諸侯ニ取ルカ如シ知事世襲參事亦十中半ハ舊臣
 家ナリ甚シキ者ハ襁褓ニ在ル人ヲシテ任知事故ニ知
 事不盡其職徒ニ鄭重尊大ニナルノミ今日ノ言辭ノ間
 自國私領ト云者未勘其參事見知事君臣ノ禮存セリ而
 メ兵ノ盛衰ニヨリテ 政府ノ待遇モ亦異ナレリ是ニ

因テ門閥ヲ廢シ人材拔擢ノ令於藩不行モ亦故アルナ
 今ヤ郡縣ノ實行ヲ舉シニハ先各藩ノ兵權ヲシテ兵
 部省ニ歸シ察地勢シテ鎮守府太宰府ノ如キ兵團ヲ居
 戍兵ヲ置テ七道ヲ守ラシメ以テ兵權ヲ一ニ歸シ從來
 知事ノ家祿ヲ以テ大藏省ヘ收納セシメ府ノ貫屬タル
 明詔ニ郡縣ノ體裁ヲ備ヘハ各藩銜國ノ陋風ヲ破ル
 ニ至ラン第ニ金澤鹿兒島ノ如キハ管下三州ニ曳山口
 德島ノ如キ二州ニ及メ而メ大少參事十人内外ヲ不出
 小藩現石不充萬石モノモ官負殆其大ヲ過グ藩廳ノ多
 公費ノ不勘ハ不待論竊ニ聞 廟堂小藩合併ノ議アリ

ト六夫是ヲ行フニ有緩急大藩ト雖政令ノ不舉モノア
 リ小藩ト雖制度能ク整モノアリ故ニ大藩ヲ存シテ小
 藩ヲ廢スルハ物議ヲ醸シ狐疑ヲ生ゼン故ニ大小藩
 共ニ廢シ大國ハ一國ニ一廳ヲ立テ小國ハニケ國三ケ
 國併シテ一廳ヲ立テ土地ノ廣狹ニ依テ其宜ニ處シ
 更ニ新廳ヲ置キ其管下ノ數藩縣ヲ併合シテ人材ヲ選
 舉シ仍舊貫守ノ令ヲ置其大郡ノ如キハ正權介官廳ヲ
 立出張シ小事件ハ裁之大事件ハ其本廳ニ至リ守ノ裁
 斷ヲ仰ク如是被改トキハ小藩ノ合併モ亦容易ニシテ
 而メ人心モ亦安セン第三知事朝集ノ如キ四年ニ三々

月朝觀シ三年ノ久シキ其管内ニアレバ自ヲ固陋ニメ
 益時勢ニ疎ク遂ニ威權ハ參事ノ都下ニアル者ニ歸シ
 一藩毎ニ小天下ヲナシ固著甚シキニ至ラン故ニ知事
 ハ都下ニ常住シ見聞ヲ廣メ時勢ヲ知り年々期限ヲ立
 或ハ三ヶ月或ハ五ヶ月支配地ニ赴キ親シク朝令ヲ
 施行シ藩務ノ遲滯スルモノヲ裁斷セバ一舉兩全ヲ得
 シ官制服制ノ儀ハ天下ノ大典臣地方官ニアリ卑見淺
 聞不知機密不取議也臣退テ前途ノ目的ヲ熟議シ別紙
 ニ數條ヲ表シ謹テ御主意奉窺候云々
 一四民合一ノ御主意相違不被爲在候哉 一家祿ハ

日本國債ノ尤大ナル者ニ付追々消盡ノ御主意ニ被爲
 在候哉 一兵權ヲ朝廷ニ歸スレ第一ノ御急務今日
 有名無實下恐朝廷空權ヲ御掌握被遊候也有實ニ運
 候御主意如何被爲在候哉 一祭政一致ノ御主意ニテ
 教ヲ出ス乎又ハ改政並立テ教ヨリ政ヲ助クル
 乎御主意如何被爲在候哉 一卒一代タルベシ然ニ其實
 世襲前途ノ御所置如何相成候哉 一廢刀ノ儀現今ノ
 被爲在候哉 右數件前途ノ御見込奉伺候云々
 任兵部少輔 河村兵部大丞

○今般大學ヲ廢セラレ文部省ヲ置レタリ
任文部大輔
太政官出仕江藤從五位

東京府中皇漢學私塾并生徒ノ數

皇學 神祇少副福羽美靜生徒十名 皇學 侍讀平田延胤同九名

皇學 醫道御月井權田直助同三名 漢學 吉川慎堂同十八名

漢學 日尾宗三郎同十六名 漢學 大沼稔吉同五名

漢學 金内格三同八名 漢學 植村蘆洲同二十名

皇漢學 蒲生重章同十名 漢學 川田甕江同四名

漢學 大野儉次郎同六名 漢學 安井仲平同五名

漢學 嶋田源六郎同六十五名 漢學 司馬 滕同十九名

漢學 宮崎尚藏同十一名 漢學 六橋燾次同三十名

漢學 芳野立藏同六十六名 漢學 石合黙翁同八十八名

漢學 猪野銀次郎同四十四名 漢學 塩谷修輔同十五名

漢學 金杉謙六郎同二十一名 漢學 古屋文太郎同十一名

漢學 岡 一同二十一名 漢學 小笠原至善同二十一名

漢學 櫻井鑛八郎同十名 漢學 海保辨之助同四十五名

漢學 布治歸一郎同五十五名 漢學 藤川三溪同十名

漢學 德積耕雲同十四名 漢學 高知達三同十六名

漢學 吉田賢甫同百八名 漢學 小笠原賢藏同八十八名

漢學 須藤時一郎同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

漢學 同同百八名 漢學 同同百八名

所用進志

漢学 林 國太郎 同七十

漢学 市川源次郎 同三十

○太史局ニ於テ新刻書目一覽ト云ル書ヲ開版セリ

○或人ノ説ニ佛國ノ孝國ニ敗ラレシト英國ノ威力ヲ

ル等他ヨリ之ヲミレハ國勢稍退歩スルニ似タリ

然ルニ其國對地ノ景況ハ日ニ開化ニ赴キ更ニ衰弱ノ

勢ナシトスルニ孝國ノ如キハ進歩中ノ最モ卓越スル

モノナリト是學校ノ盛大萬國ニ拔ンテ人々實用ノ才

ヲ磨勵スルノ驗ナルベシ

○諸藩ヨリ宣教使ニ差出セシ人々七月上旬殘ラズ歸

藩ノ命アリ

○藝州ノ渡六之助トイヘル者先年ヨリ佛國「把理」ニ留

學セシニハカラズモ「法普」戰爭ノ事走リ「把理」圍城中ニ

テ其目撃セシヲ一々日記ニ留メ新聞紙ヲ抄譯セシ儘

已レノ論ヲモ加ヘ法普戰爭誌畧ト題シ贈リタルヲ今

般兵部省ニテ官版ニナリタリ全部八卷アリテ文體殊

ニ面白ク且ツ世ノ翻譯ト違ヒ我邦人ニテ彼國事ヲ

記シタレバ事情ノ詳ナルヲ身自ラ其地ニアルガ如シ

志ノ人ハ必ズ一覽アルベキ書ナリ

○今般大坂造幣寮ニ於テ鑄造ノ新貨幣品位量目表概

畧ヲ左ニ掲グ詳ナルハ新貨條例ニ就テ見ベシ

貿易銀	貨銅		貨銀位定					貨金位本				
	一厘	半錢	一錢	五錢	十錢	二十錢	五十錢	一圓	二圓	五圓	十圓	二十圓
一圓	以千枚換一圓	以二百枚換一圓	以百枚換一圓	以二十枚換一圓	以十枚換一圓	以五枚換一圓	以二枚換一圓					
同寸二分四厘	同五分二厘	同七分七厘	同九分	同五分	同五分八厘	同七分七厘	同寸。四厘	同四分四厘六毛	同五分七厘七毛	同七分八厘七毛	同九分七厘一毛	徑四寸二分五厘七毛
同七分一分七厘六毛	同二分四厘一七五	同九分四厘八毛七五	同二分八分九厘七毛五	同三分三厘二毛九五	同六分六厘五毛八五	同二分三分三厘一毛七	同三分三厘九毛五	同四分四厘三毛六八	同八分八厘七毛三六	同二分三分二厘八毛四	同四分四分三厘六毛八	量目二分七厘六毛
同銀九銅一			同銀八銅二	同銀八銅二	同銀八銅二	同銀八銅二	同銀八銅二	同金九銅一	同金九銅一	同金九銅一	同金九銅一	性合金九銅一

○貨幣ハ天下一定ノ品ニ可有之處從來諸藩ニ於テ各種ノ紙幣ヲ製シ其通用區々ニ相成不都合ノ事ニ候今般廢藩ニ付テハ總テ今七月十四日ノ相場ヲ以テ追々衙引換ニ相成ル由御沙汰アリタリ

○新貨幣鑄造ニ付金銀銅ノ三品勝手ニ賣買ナラザルトノ旨去ル己巳十一月御達アリシガ自然換用ノ便ヲ失シ竟ニ諸鑛山ノ生産品ヲ減少致スヲ以テ向後御國內限リ勝手ニ賣買差許サレ右職業ノ者自由營業致スバキトノ御布告アリタリ

○七月九日朝東京大風雨ノ節府下潰家死込人等ノ數

概畧 死ハ二十三人 怪我五十七人 潰家千二十

七軒 半潰家六百四十五軒 潰土藏十一棟 潰床店

五軒 流失家四十一軒

○太政官主記吉次辰太郎平日精勤ノ士ナルガ七月九日ノ朝、暴風雨ヲ犯シ出務セントシ人力車ニ乗り神田橋内ヲ過ルトキ辻番小屋ノ倒ル、ニ厩サレ右上膊ヲ挫断、右大腿骨ヲ挫傷シ之カ為ニ精神錯亂ス幸ニ市兵ニ護セラレ泉橋ノ東校病院ニ輿致セラル此時毫モ人事ヲ省セス滴血淋漓殆ト活路一キガ如シト雖氏幸ニ醫官安井大助教佐々木中助教両員在ルニ會ヒ上肢

ヲ切断シ治療法ヲ得シニ因テ萬死ヲ免レ即今漸々快復ニ赴ケリ蓋シ暴風雨ノ際道路ヲ過グルニモ著意セザレバ斯ル鴻災ヲ受ル丁アリ慮ガルベケンヤ

○七月中旬六雨ノ翌朝道灌山俄カニ三十間程ノ洞穴ヲ生シ水深キ一丈三尺餘ナリト其邊ノ田面三反計リモ埋レ又路上ニ高サ二丈餘ノ小山ニツヲ築出セリ是水脈ノ塞ガリテ崩裂セシモノカ幸傍ニ家屋モナケレバ人民ノ傷害等ハ聊ナカリシト云

報告

今般東京築地保照表門前寶記兩替店寓居ニ於テ支那
語學教授致候間御執心ノ御方ハ御入来可被下候

支那

玉暢齋謹白

一海軍圖説三冊 安藝村田樞文夫譯 既出

一新封建論一冊

右靜妙子著述ニテ天下ノ大勢封建郡縣ノ利害ヲ論
ゼシ書ニテ新聞誌第六號附録トシテ出版致候間御
求奉願候

日新堂

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ガ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バサル處多シ願クハ同好ノ人
何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發見スベシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

一田池山林ノ家屋舟車等ノ賣買賃借 一新發明巧器及書籍等ノ賣買

一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買 一金銀其外ノ賃借等

一諸般ノ入湊出帆積荷ノ物件等 一失物尋物等

一店ヒラキ新規賣出等ノ引札 一觀セモノ集會等ノ引札

右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月分ハ八匁
三ヶ月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌定價

二號定價銀二匁 當分五月三號宛出板

一三ヶ月分引受候向定價ヨリ一割半引

六ヶ月分八二割引

一二年分六三割引

右定ノ通約定前金受取候上六每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ノ人ハ本局へ引合上御相談可申候

本局

東京小川町今川小路

日新堂

賣弘所

同西國横山町三丁目

和泉屋金右衛門

日本橋釘店

和泉屋壯造

明治辛未八月

定價二匁

新聞雜誌

第九號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未ダ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗ニテ疑怖ムト多ク竟ニ我
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
太政ノ計ヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カタキ世ニ生レシカヒ
ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中
ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻ノ事ヲ棄ントテナリ 願ハ此胆子
ヲ讀モフ人マアヲ間テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚
喜可キ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レヌ夏虫氷ヲ疑ハ笑有リ
テサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云バケレ

新聞雜誌第九號

明治四年辛未

○今般清濁酒其外銘酒類并醬油釀造御定稅則御改正
相成從前ノ株鑑札都テ廢止シ更ニ免許鑑札大藏省租
稅司ヨリ引替可相渡一ノ御布令アリタリ新規鑑札免
許料清酒類ハ金拾兩濁酒ハ金五兩醬油ハ金壹兩一分
宛又釀造稅清酒類ハ生酒代金百分ハ五濁酒ハ同百分
ノ三醬油ハ同十分ノ五ナリト云
○西洋六月十四日 我四月 西米利加合衆國新約克府ニ
テ舊教ノ徒ト新教ノ徒ト大ニ爭論アリ右西徒ハイッ

臣元德謹而惟ルニ 太政一新 聖明英断ヲ以テ封建
ノ宿弊ヲ改革シ粗郡縣ノ制度ニ復セリ隨テ會計兵備
等目的相立ニ至レリ就中其名已ニ備テ其實未ク舉ラ
ガル事アリ臣夙ニ 闕下拜趨ノ命ヲ蒙リ區々ノ微衷
ヲ吐露セント欲ス然ルニ名古屋德鳴其他上表論述以
ル所能ク前途ノ形勢内外ノ事情ヲ洞觀シテ事理當然
トリ速ニ採擢舉行ノ實アラントヲ仰ク蓋シ此際ニ當
リ門閥世襲ニ安シ身家ヲ顧慮スル所アル時ハ人才輩
出ス可ガル必然ナリ因テ断然華士卒ノ名唱ヲ廢シ均
ク平民トナシ其家祿ハ悉ク大藏省ニ收入シ公議ノ上

相當ノ禄ヲ下賜リ更ニ一國ニ一府ヲ置キ天下ノ人才
ヲ網羅シ其長官ニ任スルニ至ラハ乃チ郡縣ノ名實相
副ヒ全國一治ノ大本自ラ立ツ丁ヲ得シ臣資性庸劣ニ
シテ素日ノ重任ニ堪ガタシ頓ニ辭職セントス然レモ
管内ノ人心偏固ノ風習一洗セズ日夜驚力ヲ盡シ聊カ
藩政ヲ改ム爾後人心ノ方向稍定レリ然ルニ己巳ノ冬
ニ至リ 朝旨ニ基キ常備兵ヲ編制シ國家ノ用ニ供セ
ントセシニ豈料ランヤ兵隊中不良ノ徒一時ノ紛紜ニ
乘シ衆人ヲ煽動シ 朝憲ヲ憚カラス終ニ暴舉ヲナス
ニ至レリ是他ナシ臣ノ才劣リ識薄ク 敷旨ヲ貫徹ス

ル能ハズ且所謂門閥ヲ脱セザルニ因ル深ク恐悚ノ至
 ニ堪ズ故ニ其職ニ在ル一日モ安セズ仰キ願クハ
 臣カ職務ヲ免セヨ然レハ退テ平民ニ歸シ日夜
 テ智識ヲ磨キ他日鴻恩ノ萬一二報シ從一位遺表ノ意
 ヲ通暢セントス 英明宜シク臣カ微衷ヲ憐察シテ之
 ヲ採用センコトヲ期ス云々

○大學南校御雇ノ外國教師等仲復休業ノ間ニ富士山
 へ登リタリシカ其附添ノ河尻何某平生柔弱ナル者ニ
 テ下山ノ折路ニ後レ歸リ来ラザレハ立歸リ土人ナド
 雇ヒ洞坑エモ繩ニタヨリ下リテ探セシニ舊骨ハアレ

氏新ニ落シモノトテハ見ヘズ其他種々手段ヲ盡シ尋
 ケレ氏如何ナル故ニヤ遂ニ行方知レザリシト云

○武州荏原郡野良田村百姓ニ粕谷金藏ト云ル者アリ
 其妻エト當年三十九歳ニテ實子四人アリ中ニ乳呑モ
 アリケルニ夫ト申合セ暮シ方ノ一助ニモセントテ金
 子ヲ添ル小兒都合六人貫ヒ受シガ無程三人ハ親元ハ
 返シ一人ハ病死セシヲ竊ニ墓地へ埋メ一人ハ乳不足
 ナルトテボ口切ニ包ミ置キ日ニ粥ヲ一二度宛喫ヘ
 レニテ成長セバ夫迄ノ丁杯ト打捨ヲキケレバ終
 ニ及ベリ又一人ハ添寐ヲセシ折顔へ乳房ヲ掩ヒ息絶

ヘシヲ其儘床下へ埋置シ等ノ所業露頭シテ絞罪ニナ
 リタリト又東京深川靈岸町ニ住ヒセル齋藤幸太^ト妻
 テ^ト云ル者當年四十歳ナルガ夫ト相談ノ上二歳ニ
 ナリツル嬰兒ニ金子其外品物ヲ添へ貰受養育シケル
 ガ夫留守ノ折膝ノ上ヨリ投殺シ其儘打過ギ其後又前
 同様ノ手續ニテ二歳ノ小兒ヲ貰受シニ是亦或夜面部
 へ袖ニ當呼吸ヲ止メ押殺セシ始末取糺相成リ斬罪ノ
 刑ニ行ハレタル由

○太政官中左右大臣大納言大史權大史小史權小史主
 記官掌等ヲ廢セラレタリ

○太政官職制^{シヨクヘイ}ノ通り定メラレタリ

正院 太政大臣 正二位 納言 後二位 參議 正三位

樞密大史 正四位 樞密權大史 後四位 樞密小史

正五位 樞密權小史 後五位 大史 後四位 權大

史 正五位 小史 後五位 權小史 止六位

式部局 長 正四位 助 後四位

舍人局 長 後六位 助 正七位

推樂局 長 後六位 助 正七位

左院 議長 正三位 一等議員 後三位 二等議員 正

四位 三等議員 後四位

右院 諸省長官次官

○民部省ヲ廢セラレタリ

○大藏省中監督司用度司租稅司ヲ廢セラレ更ニ左ノ

通り置レタリ

租稅寮

勸業司

鈔計司

紙幣司

戶籍司

驛遞司

○工部省中ニ土木司ヲ置レタリ

○宮内文部兩省へ左ノ通り置レタリ

宮内省

侍從長

正四位

大監

從六位

内匠司

調度司

文部省

大博士

從三位

中博士

正四位

少博士

四位

大教授

正五位

中教授

從五位

少教授

六位

大助教

從六位

權大助教

正七位

中助教

從七位

權中助教

正八位

少助教

從八位

權少

助教

正九位

任樞密大史

田中從五位

同

上方從五位

任樞密權大史

神田從五位

同

澁澤大藏權大丞

任樞密少史

巖谷從六位

任樞密權少史

日下部正七位

任少史

竹間正七位

任權少史

川北正七位

同

横山從七位

任少式部

龜谷從七位

○兵部省內會計司ヲ廢セラレタリ

任陸軍少將

山田兵部大丞

任兵部大丞

船越兵部權大丞

任陸軍少將

西郷兵部權大丞

任陸軍少將

鳥尾小彌太

任陸軍少將

相野信作

任陸軍大佐

大山兵部權大丞

任陸軍大佐

谷兵部權大丞

任陸軍大佐

三浦兵部少丞

任陸軍大佐

谷重善

任陸軍大佐

篠原國幹

任兵部權大丞

西兵部少丞

任陸軍大佐

野津鎮雄

任兵部權大丞

種田政明

任兵部權少丞

小澤武雄

任兵部權少丞

楠目糺問權正

任陸軍少佐

武田斐三郎

任陸軍少佐

石井兵部權少丞

任陸軍少佐

高橋熊太郎

兼兵部權少丞

白戸隆盛

任兵部權少丞

堤喜六

任兵部權少丞

高島眉山

任造兵正

佐野昂

任糺問權正

黒川糺問大佑

任陸軍少佐

池上四郎

任陸軍少佐

有地品之允

任陸軍少佐

野津七二郎

任陸軍少佐

永山彌一郎

任陸軍少佐

土屋可成

任兵部權少丞 福原一輔

任文部大丞兼文部大教授 佐藤大典醫

任文部大丞兼文部中教授 岩佐從五位

任文部權少丞 中島正七位

任文部少丞兼文部中教授 長與正七位

任文部權少丞 杉山權少史

任文部中教授 内田從六位

任文部中教授 入江從六位

兼文部中教授 加藤文部大丞

任文部權大丞兼文部中教授 松岡時敏

任文部權少丞兼文部大助教 肥田正七位

任文部權少丞兼文部大助教 辻從七位

任文部大教授 箕作正六位

任文部中教授 坪井從六位

任文部中教授 鈴木從六位

新聞雜誌第九號 終

一 除臭要訣一冊

林屋爾字斯上亞細亞霍亂其他各種ノ傳染流行病ヲ
預防スル除臭ノ要訣ヲ述シ書ニテ今般 官許ヲ蒙
リ東校ノ檢査ヲ經左ノ店舖ニ於テ右藥種共賣弘致
候間御求ノ上効驗御兼知可被下候

製藥所深川安宅町五番地 賣弘所 小網町三丁目 相又向藏

東京三田

津田仙彌述

一 法郎西通俗單語篇全二冊 戸澤光徳譯

右私店ニ放テ賣弘致候間御求ノ程奉願候

東京四日市

和泉屋半兵衛

撰者伏テ四方ノ君子ニ告グ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス

其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但時事興聞耳目ノ及バサル處多シ願クハ同好ノ人
何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉ヲ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入ヒズ無根ノ浮言造謠アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

一 田地山林家屋角車等ノ賣買賃借 新發明巧器及書籍等ノ賣買

一 產物器具食品藥劑等ノ切ノ賣買 金銀其外ノ賃借等

一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等 失物尋物等

一 店ヒラケ新規賣出等ノ引札 一 觀セヒノ集會等ノ引札

右等何レモ一行廿三字一度出版價三匁宛同事件一月分ハ八匁五分

三月分ハ廿四匁五分六月分ハ四十六匁ニテ引受イタノ候

新聞雜誌定價

一號定價銀二匁 當分、月三號宛出板

二三月分引受候向心は價ヨリ一割半引

一、二、三、年分ハ三割引

六月分ハ二割引

右定通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届發候又遠方取次賣弘方望ニ入ル本局へ引合上御相談可申候

東京小川町今川小路

本局

日新堂

同兩國横山町三丁目

賣弘所

和泉屋金右門

明治辛未八月

定價二匁

新聞雜誌

第十號

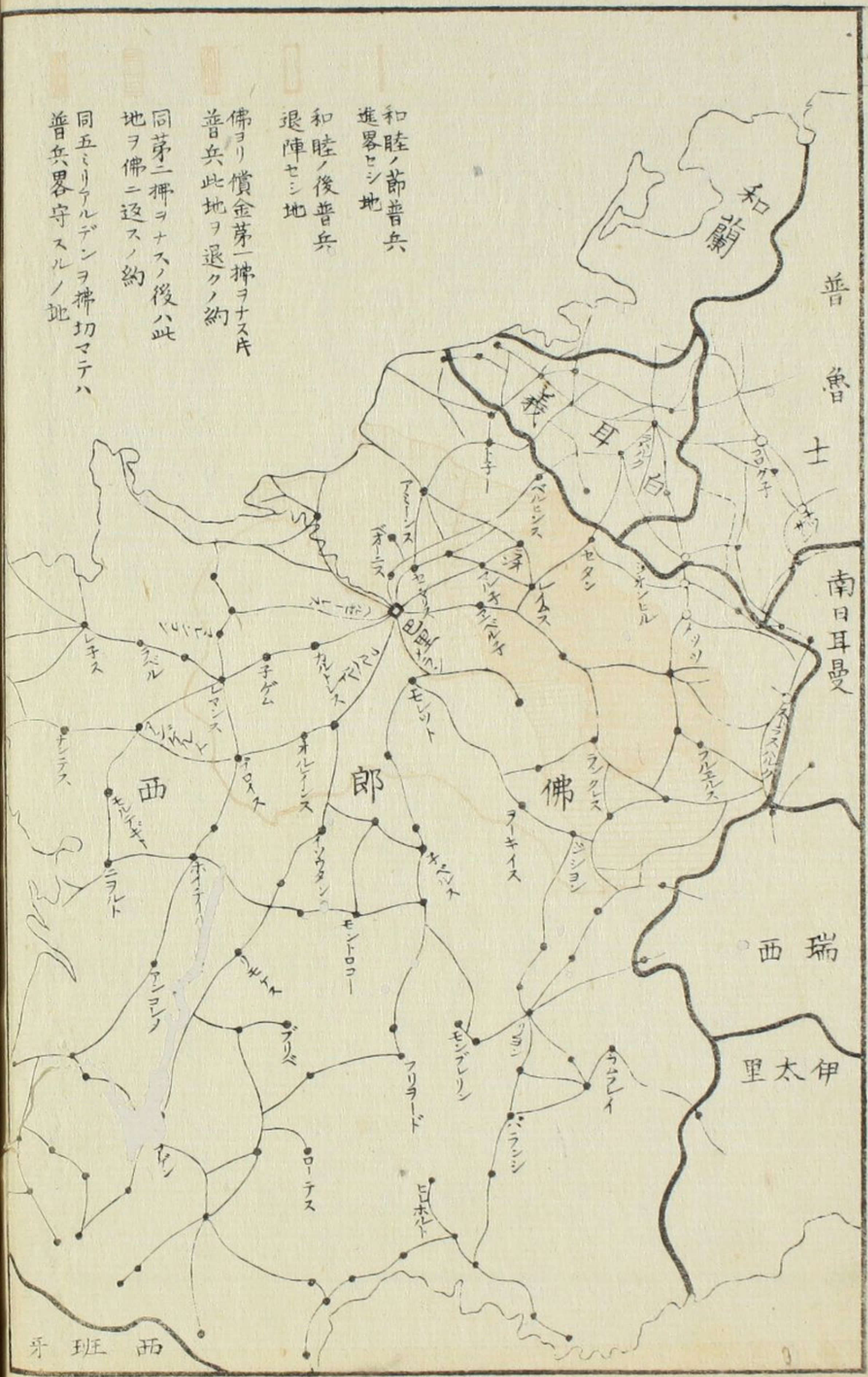


緒言

九天下ノ物事日ニ新ナルニ我未ダ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗ニテ疑怖ムト多ク竟ニ我ニ
 是レシ人ヲ非ニスルノ過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人
 太政ノサマヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カタキ世ニ生ヒカレ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 太政ヲ始シ諸府藩縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞ニテ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中
 ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻ノル事ヲ棄テテナリ 頑ハ此冊子
 ニ讀モフ人ニテ間テニテ推シ近ヲ知ラ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚コシ
 喜可キ事多ク唯隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免ル人夏由ニテ疑ノ笑有リト知
 夫ハサレコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ベケレ



新編雑記 卷十



和蘭ノ節普魯士
進界セシ地
和蘭ノ後普魯士
退陣セシ地
佛ヨリ償金第一擲ヲナス
普魯士此地ヲ退クノ約
同第一擲ヲナスノ後ハ此
地ヲ佛ニ返スノ約
同五ミリアルデンヲ擲切マテハ
普魯士畧守スルノ地

新聞雜誌第十號 明治四年辛未

十八百七十一年二月廿六日
和蘭ノ證
氏ノ際ニ約束セル
和蘭ノ證

第一佛ヨリ獨ヲ利シ「ロートリンゲン州五分ノ一」
城ヲ龍ハル及ビエルザツス州城ヲ除ク「割クベシ」
○第二佛ヨリ五「ミリアルデン」三「千三百三十餘」ナレ
ハ米金ニシテ高ト相成ルヲ「拂フベシ」但シ「一」ミリア
ルデン「ハ千八百七十一年間ニ佛ヒ殘餘ハ三年間ニ清
算スベシ」○第三右條約ノ件々國民會議堂ノ取極

相濟候ハ、巴利斯城及其他ノ郡縣西邊ニ滯陣セル獨逸兵ハ直ニ退陣スベシ爾他郡縣ノ退陣ハ第一「ミリア」デント残金ノ拂ヒ出シニ應シテ至ルベシ但シ残金四「ミリア」アルデンハ約束取極メノ日ヨリ五朱ノ利息ヲ賦スベシ ○第四郡縣へ滯陣ノ獨兵其土地へ金貨ヲ賦課ス可ラズ尤モ滯陣中ノ兵糧ハ佛國ヨリノ給仕ナルベシ ○第五割地ニ州ノ人民へ時日ヲ限り獨或ハ佛ニ屬スルノ方向ヲ撰バシムベシ ○第六降兵ハ滯漫ナク歸國セシムベシ ○第七和睦公議 曾ハ前條ノ約束取極リ次第白耳義ノ主都ニ設場スベシ ○第八

諸郡縣略地ノ守保ハ佛更ニ歸スベシ但シ佛更ハ獨將ノ指揮ニ從フベシ ○第九前條ノ約束、略地ヲ除クノ外他ノ郡縣ニ通用スベカラス ○第十以上ノ約束ハ國民會議堂ノ取極ヲ要スベシ ○佛國戰年後其國民餓死不少趣ニテ米國有志ノ民ヨリ饑餓救助トシテ澤山ノ糧食ヲ贈レリ其連名中ニ日本華頂宮伏見滿宮西御方ノ名米國政府ニテ加ヘタルヨシ 龜井元津和野藩知事ニ御褒詞ノ寫 從前ノ弊習ヲ洞悉シ 將來ノ治體ヲ達觀シ今藩解藩ノ

儀建言ニ及ビ公廨諸務ヲ始メ處置方ニ至ル迄總テ確
實取調明細書等差出シ候段深贄ノ衷情 御満足ニ被
思召候云々又御賞トシテ權大參事三名へ晒ニ匹宛大
属以下史生以上三十五名へ晒一匹宛下賜シヨシ
毛利從一位遺表ノ寫

臣敬親年来不才ノ身ヲ以テ叨ニ浩恩ヲ蒙リ報効ノ實
更ニ無レ之日夜恐懼罷在候猶先般 勅使岩倉大納言下
向 宸翰ヲ賜リ且厚大ノ 勅諭ヲ蒙リ不當ノ重責ヲ
荷ヒ重疊不勝慙懼之至速ニ 闕下拜趨可仕ノ處不圖
疾病ニ罹リ候ニ付無餘義知事元德敬親ニ代リ罷登リ

候儀御願仕置候次第ニ御坐候病氣輕快ニ及候得ハ當
秋ハ強テ上京仕縷々ノ微衷言上區々ノ爲カヲ相盡度
奉存候處其後病勢益相募リ自知其不可治再ヒ得近
玉座候事亦難計遙拜 九重獨リ不堪悲咽候臣謹テ今
日ノ形勢ヲ考前途ノ光景ヲ察シ候ニ實ニ不容易事ト
奉存候乍恐 宸誓ノ實跡未盡舉封建ノ餘習未全脱動
スレバ 朝威下ニ移リ尾大不掉ノ患有レ之候抑七百年
後大勢一變百事初興ノ秋ニ候得者輿論紛紜衆庶方向
ニ迷ヒ隨テ官員議論多端 御政礎確立ニ不至ヨリ起
候事ト奉存候伏テ願クハ本根ニ被就御手必竟 御誓

新開往志

三

約ノ大旨ヲ以テ目的トシ命令一ニ出候様有レ之度无候
得バ 朝威上ニ歸シ天下ノ方向一定内治外接ノ實相
舉獨立不羈ノ基可相立ト奉存候臨終別ニ申上候義無
御坐候云々

○戊辰ノ歲諸藩版籍奉還ノ歎願ヲナシ郡縣ノ制度ニ
改リシニ尚封建論ヲ主張セシ藩四十餘アリタリト云
○近頃海外ヲ遊歴シテ歸リタル人ノ話ニ世畧萬國遊
女アラザル所ナシ然レモ其體裁ノ宜シカラザル 我
邦ヨリ甚シキハナシ外國遊女ハ淫婦若クハ貧婦自ラ
求メテ之ヲ為ス丁ニテ他人ヨリ強ユルニ非ズ又男子

ノ之ヲ養ヒ家業ト為ス者ナシ官府ヨリハ其竟ニ禁ス
可ラサルヲ察シテ姑ク黙許シ置ケル姿ナリ其外小
異同アリト雖モ大畧皆此ノ如シ然ルニ 我邦ノ遊女
ハ之ニ異ナリ第一父兄又ハ夫ノ爲ニ賣レテ妓トナル
者アリ當人ハ貞操ナルモ竟ニ其志ヲ保ツ丁能ハズ表
向ハ年季奉公ナド、稱スレモ畢竟賣奴ニ異ナラズ又
男子ニシテ之ヲ業トスル者遊女屋ハ勿論舟宿幫間ノ
類救擧ニ暇アラズ世人モ亦公然之ヲ許シ正理ノ本業
ト同視スル丁舊來ノ風習トハ云ナガラ最モ不體裁ノ
甚シキ者ナリ方今百事日新ノ際ナレバ次第ニ是等ノ

惡習ヲモ御整正アリタキモノナリト

○品川縣管内小金井村農夫星野金助娘龜當年十八歳ナリシガ性質柔和ニシテ平生而親へ孝養ノ心深ク又幼少ノ弟妹等ヲ愛撫セリ殊ニ八十七歳ノ曾祖母病ニ罹リシ折晝夜惰ラズ看病シ寒キ時ハ自ラ肌ヲ以テコレヲアタ、メナドシケレバ遠近ノ人皆其厚志ヲ感賞シ官ヨリモ褒賜アリシヨシ

○八月二日ノ夜武州品川縣囚獄舎失火燒亡セリ其原由ヲ聞ニ一番牢入淺次郎二番牢入長太郎ト云ル者兩人ニテ其他五人申合セ羽目板ヲ引放シ三番牢ノ幸吉

貯持ノ火打并附木等ヲ密ニ奪取り厠ノ内ニ障子ノ紙屑ヲ積上是ヲ燃草トナシテ火ヲ附シニ忽チ燃へ出テ一同駭立チシカバ一番々人驅付戸口ヲ開ニ乘シ二番三番ニ在リシ者氏任切羽目ヲ打破リ繫獄六十人餘ノ内三十六人餘脱走セシヲ東京府取締第二大区ニテ六人ヲ捕縛シ第三大区ニテ八人ヲ捕縛セシ由ナリ
○神祇官神祇省ト改稱被仰出大少祐權官并大史以下ヲ廢セラレ更ニ大嘗典中嘗典少嘗典大神部中神部少神部等ヲ置レタリ
○神祇省中諸陵寮ヲ廢セラレ自今御陵事務同省ニ於

テ取扱被仰出タリ

○書籍出版免許ハ文部省ヨリ出ルヨシ御布令アリタ

任文部卿 大木 喬任

任式部長 坊城 從三位

任外務大丞 宗 重正

任大藏大丞 安場 保和

同 谷 鏡臣

任宮内大丞 村田 經滿

任工部少輔 河瀬 泰四郎

任東京府知事叙從四位 由利 公正

任嚴原縣權知事叙從五位 渡邊 清

任宮谷縣權知事叙正六位 柴原 利

任宮谷縣大參事 國司 仙吉

○從前ノ官位相當ヲ廢セラレ更ニ官等十五ヲ立ラレ三等以上勅任七等以上奏任八等以下判任ト定ラレタリ

○散髮制服畧服脱刀等自今勝手タルベク尤禮服着用

ノ節ハ帶刀可致旨仰出サレタリ

○米國留學生長吉川雉郎ヨリ贈リタル書中ニ云フ近

頃米國ノ一大奇事ハ「セチユ」セツフ洲ヨリノ落札
 ニテ華聖頓上院「サナー」ト上官トシテ黒奴一人撰擧ニ
 相成リ「須ル」英名アリ其他下院ニモ三名アリト聞ケリ
 今ヨリ十年前ハ黒奴賣買ノ事件ヨリ南北戦争ヲ醸セ
 シ始末ナルニ今日ニ至テ黒奴中ニ此ノ如キ人物ヲ出
 スハ開化ノ澤文明ノ域ト雖モ進歩ノ速ナル「真」ニ恐
 ル可シト又云或洋人ノ説ニ都テ動物ノ開化ニ進ム
 モ昔ヨリ今々ヨリ後世ト人類ニ異ナラズ「歐洲」中ニ猿
 ノ夥シキ一「小島」アリ其猿古ハ「木實」ノミヲ食テ生活
 セシニ近來追々漁ノ術ヲ發明シ木ヲ折リ枝ヲ集メ小

屋ヲ結ビナド殆ンド人ニ異ナラズト聞ケリ既ニ頃日
 モ奇異ナル「ハ」觀セ物ニ一ノ家猪アリテ英語ヲ解ス
 ル「人」ノ如シ因テ其名ヲ「ミス」トル某ト呼ベリ最初ニ
 其名ヲ呼ベハ小屋ヨリ出來リ一方ニ數十枚ノ木札ア
 リテ表ニ古今英雄ノ名ヲ記セシヲ見物人中誰ニテモ
 家猪ニ向ヒ「ナボレ」又ハ「ウハシ」ト言ヘハ家
 猪忽チ數十枚ノ木札中ヨリ其名ヲヨリ出セリ又算術
 ヲ解ス是モ右同様木札ニ數字ヲ記シアリケルヲ看客
 「三三」ト云ヘハ家猪九ノ數字ヲ記セル札ヲ持來レリ其
 節日本人ノ中ニ未夕英學初心ノ人アリテ家猪ノ吾ニ

優ル萬々ナリト大突アリシト

○樺太開拓使北海道開拓使へ合併ノ事仰セ出サレタ

○八月二日第十字今般北海道開拓付御雇入ニ相成タル亞米利加國農學教師「ホラシ、カフロ」ニ參朝セリ同氏耕作收畜ニ實効マリシ紀事并彼國諸官ヨリノ贈言等アリ近日附録トシテ發兌スベシ

新聞雜誌第十號終

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ゲ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バザル處多シ願ク同好ノ人何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載セ玉フ可シ無名ノ書、敢テ米入ヒク無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘等望ニヨツテ出版スル事件

一田地山林家屋角車等ノ賣買貸借 新發明巧器及書籍等ノ賣買

一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買 金銀其外ノ貸借等

一諸船ノ入港出帆積荷ノ物件等 失物尋物等

一店ニラヤ新規賣出等ノ引札 一觀セモノ集會等ノ引札

右等何レモ一行ハ三字一度出版價三匁宛同事件ハ月分ハ各月分ニテ月分ハ廿四匁五分六匁月分ハ四十六匁ニテ引受イタ

新聞雜誌定價

一 躰定價銀二匁 當分々月三躰宛出板

二 三月分引受候向定價ヨリ一割半引

三 半年分ハ三割引

六月分ハ二割引

右定通約定前金受取候上ハ毎躰發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ニ入ル本局へ引合上御相談可申候

東京小川町今川小路

本局

日新堂

同西國横山町三丁目

賣弘所

和泉屋金右衛門

明治辛未八月

定價二匁

新聞雜誌

第十號

附錄



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心曠ニ知嚙シテ疑悔△一多ク竟ニ我ヲ
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
大政ノサマヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルニシカクテハ違カタク世ニ生レシカモ
ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國中
ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻ナル事ヲ棄シ 此冊子
ヲ讀モ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ大地間ニ我意外ナル驚可ク
喜可キ事多ク唯 隅耳ヲ見ルハ田舎人タリヲ免レヌ夏虫水ヲ受テ笑有リト知
美サテラフ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ヘケシ

新聞雜誌第十號附録

「アリソリカ」合衆國農學局長官ホラシケプロンシタル者
勸農ノ事業ニ通曉シ其學科ヲ研究シ多年實地ノ
成功アル由ヲ以テ今般我 邦ニ徵シ北海道開拓
ノ長官次官ヲ輔ケ其事務ヲ司ラシメントノ一ニ
テ森辨務使ヨリ掛合アリシ旨趣書畧抄
日本ノ北海道ハ元蝦夷ト稱ス北緯四十一度餘ヨリ起
リ四十五度半餘ニ畢リ廣袤長短大凡一萬七千百五十
方里ノ一大島ニシテ我 邦ノ北部緊要ノ地勢タルヲ

新聞雜誌第十號附録

論ヲ待^{マツ}タズシテ瞭^{ハツ}然^{ゼン}タリ其周圍海ニ面スル所ハ大抵
 皆土地ヲ開^キ村落ヲナスト雖^モ其内地ニ至^リテハ未
 ダ開拓ノ事行^キ届^カズシテ全ク荒蕪ニ属^スセリ故ニキ人
 等大概^ガ漁業ノ利ヲ專^トシ農業ノ勞ヲ煩^トスルヲ以^テ
 其所^{モト}需^ムハ皆之ヲ本地ニ仰^テキ換^ルニ海利ノ産物ヲ以^シ
 来^レリ依^テ先年ヨリ此開拓ニカ^ク用ヒタレ^ル其効^シヲ
 得^ルヲ得^ズ今我政府殊^ニ廟議ヲ盡^シ全カ^クヲ集^メテ
 必^ス此全島ヲ開拓セント決定^シ別ニ開拓局ヲ設^テ專
 ラ此事ヲ司^トラシム抑^テ此島ノ氣候ヲ概^シスルニ臨^ミ
 ノ地ニシテ大抵^ウ井ンゲーラン^ト諸州ノ候ニ均^シ種

々ノ良材頗^ル繁殖^シ之ヲ以^テ家ヲ造^リ船ヲ製^スベシ
 其草原ハ沃^ク土壤野ナレ^バ米麥野菜ノ類種^々或^ハキ
 羊ヲ養^フニ足^ベシ又澳^州灣湖水川河等アリテ舟楫運^用
 ノ利ニ乏^シカラズ殊^ニ山脈^ニ伏起^シ噴火山ヲナスモノ
 不^レ尠^ク皮相スルニ^ニ礦^石金^石煤^炭ノ類必^ズ其間ニ隱^伏ス
 ル多^カルベシ方今現^ニ石炭^礦及^ビ金^銀ノ類已^ニ發^見
 セリ之ニ因^テ開拓ノ効^行届^ク時ハ此一大島ハ東洋中
 ニ於^テ富饒ノ地ナリト稱^セラレン^ト今ヨリ之ヲ保^證
 スベシ然^ルニ今日マデ開拓成功ニ至^ラザルハ獨^轉住
 人民ノ愚昧ニヨルノミナラズ實ハ開拓ヲ司^スドルノ人

新開雜誌 第十附録

其事務ニ疎ナルニ出ルト思ハル因テ熟々開拓ノ業ヲ
考フルニ地質及地味適宜ノ培料用法及適當ナル器械
ヲ用フルヲ運漕便宜ノタメ道路ノ建築及溝洫堤防等
地質礦山植物等諸學式等ヲ以テ三大眼目トスベシ其
人ハ地理水利農學礦學ニ通曉シ實地ニ熟達セル者ヲ
撰ンテ此任ニ充ベシ今我國ニ於テ此般ノ人物ヲ得
ルコト尤モ難シ於此米國ニ依頼シ右ノ學術實地トモ兼
備ノ人ヲ得我開拓局ノ顧問ニ供セント欲ス云々

ホラシ、カプロン米國ヲ發スルノ節諸官ヨリノ贈
言書一ニヲ録ス

千八百七十一年六月廿八日「コロシヤ州華盛頓行
政廳ニテ」
ユ、エス、グラント 此人ハ現今ノ
大紗領ナリ

本月二十七日足下ノ送レル農事局コムミツシヨ子
ルヲ辭職セル由ヲ述タル書面ヲ只今落手セリ○余足
下數年ノ間國ノ爲メ堪能ヲ以テ總轄セシ所ノ局務ヲ
崇尊セル故ニ足下ノ辭職ノ書面ヲ請取領承スル事若
シ足下任セラレタル新職ノ爲ニ非ザレバ之ヲ嘆惜ス
ベキナリ○此新職ハ足下必ズ十分其任ニ堪ヘ足下ヲ

聘^{ハク}セシ國民ノ爲^タメニ計^{ハカ}ル可^クシタル大益^{エキ}ヲ興^{オク}ス可^クキナ
 リ○足下ノ引^{ヒキ}受^{ウケ}タル大任^ニ就^ツテハ余^ア豫^アジメ足下及^ビ
 足下ヲ聘^{ハク}セシ國民ノ爲^ニ必^ズス稱^シ賛^{サン}スベキ功^{コウ}業^{ギヤク}アラシ
 丁^ツ且^ツ此國ト萬國トノ交^{コウ}易^{エキ}速^{スミ}ニ繁^{ハン}盛^{セイ}ナランコトヲ期^キセル
 此ノ如^クキ成功^ハ我國ノ如^クキハ素^{モト}ヨリ世界ノ利^リヲ增^スス
 外^{ソウ}アルベカラズ○辞^ジ職^{シヨク}ノ事ハ足下ノ新任^ニ就^ツテ希^キ望^{ボウ}
 セル諸^{シヨ}件^{ケン}ヲ成^{セイ}サン事^ニヲ廢^{シヨク}幾^キシ足下ノ諸^{シヨ}求^{キウ}セシ日^ニヨリ
 之^シヲ長^{シヤウ}身^{シニ}リ○余^ア真^{シン}實^{ジツ}ニ足下後^ノ來^ニ幸^{コウ}福^{フク}ナランコトヲ祈^イ
 ルハ自^ララ姓名^ヲ記^シセリ

千八百七十一年七月六日「華盛頓府外務局」ニテ

外國事務總裁補負セシヒ、デビス

足下^ハ今^キ將^キニ日本國ニ向^ムテ發^{ハツ}程^{テイ}セントスルノ際^ニア
 タツテ^ハ曾^{カウ}テ掌^{ツカサト}リシ農事局職務ヲ辞^ジスルニ付
 キ足下ノ本國政府ニテ損^{ソン}失^{シツ}ヲ受^ウルヲ悲^ヒ歎^{タク}セルヨシヲ
 述^シベザルヲ得^ズ然^レモ足下日本政府ノ爲^ニ勤^{キン}勞^{ロウ}シ足
 下曾^テ我國貴局ニ於^テ著^イシク顯^アセシ足下ノ練^{レン}熟^{ジュク}才^{サイ}能^{ネウ}
 ヲ日本ニ施^{ホト}ス爲^メ餘人ノ行^ヒガタキ職務ヲ執^トラント
 セル由^ヲ承^{シヤウ}知^チシ此^レ悲^ヒ歎^{タク}ヲ大^ニ慰^イ解^{カイ}セリ余^ア以^オ爲^モラク此
 職務ニ因^テ太平洋海郵船ニテ往^イ來^{ライ}シ易^キ日本帝國ノ才
 智^チアル人民ノ爲^メニ必^ズ大^リ利^リ益^{エキ}ヲ興^ススベシ○蝦^エ夷^イノ

如ク開墾耕種ノ繁昌スベキ土地富メル地方ヲ委託
シテ我國ニテ驚ク可ク進歩シタル精工ナル開墾ノ法
及機械ノ利ヲ施スナラント豫メ之ヲ期セリ此諸件
ハ日本人民ノ食料ヲ充實スル爲メ緊要ナルモノナリ
然ル后土工ノ學ヲ起シ外國交易ニ有要ナル有餘ノ品
物ヲ内部ヨリ運送スル爲メ便利ニシテ費用少キ路ヲ
開ク可シ○學術ノ進歩ニ隨テ蝦夷鳴ノ鑛業モ亦實ニ
日本ノ富谷増々事必セリ○足下ノ先ツ試ニ行ハン
トス登嶽ハ足下ヲシテ其地質ノ適當セルヤ否ヲ能
ク判夫スルヲ得セシム可シ且足下諸工藝及ビ農業ニ

就テ博學精通ナルハ其企ル所ノ開拓ノ廣狹及ビ費用
ヲニスルニ於テ甚緊要ナル足下ノ實功信任ス可キ
教示ヲ身ニナルハシ○前年一揆ヲ鎮靜スルニ當リ陸
軍士官トナリ忠勇ヲ國ニ竭シ其後民部ニ在テ信任ス
可キ勤功ヲ爲シタル足下ト訣別スルノ情實ニ悲ニ堪
ズト雖氏吾輩私ニ足下ノ力行及ビ才能ヲ以テ甚高大
ナル目的ヲ達センコトヲ欽仰ス
千八百七十一年六月二十一日華盛頓府軍務局ニテ
軍務局總裁ダブリエ、エツチ、ベルク、ナップ
足下今般外國ニテ肝要ノ重ニシテ文ケント欲セントシ

テ速ニ農事局ノ全權ヲ辭職シテ存意ナル由ヲ衆
知セリ此事ハ足下自己ノ為メ并足下ノ勤勞ヲ要セル
政府ノ為ニ頗ル莫大ノ裨益ヲ興スナル可シ去ナガラ
足下ノ辭職セル局ト關係スル人々ノ為ニハ不幸ト云
ベシ足下多年農事局ノ全權ノ職ヲ執リ優レタル功業
ヲ立テ以テ此ノ貴大ナル農學ニ於テ足下ノ名譽ヲ顯
セリ故ニ足下ノ辭職ハ國家ノ為ニ損ニナルベシ我朋
友ニ及ボテ深切ニ待遇セン事ヲ囑セリ且後來足下ノ
幸甚ナランコトヲ是祈ル

カプロン耕作牧畜ノ事ヲ畧記ス

千八百三十四年カプロン巴里底莫ト倭海阿州ニ亘セ
ル鐵道並益現府ニ別ル、分岐ノ傍ラウレルナルハ
トシト河ノ水勢ヲ見出シ爰ニ綿匹及ビ木綿器械ノ大
製造局ヲ取建シコトヲ企テ先ヅ小院ヨリ建初メテ遂ニ
千八百四十九年ニ至リ大院ヲ成就シ之ニ憑テ二千三
百人ノ人口活計ヲ營ニ至レリ○同氏ノ耕耒ニ稀世ノ功
ヲ立殊ニ耗廢ノ地ヲシテ再新セシムルノ術アルヨシ
世ニ聞ヘシハ製造ノ爲此ヲウレルニ在シ時ノ事ナリ
ラウレルノ畑ハ千二百アケルニ在シテ千八百三十

六年ニ取極タル價ハ一アクル十坪ニ付七元ナリシ
 ニ千八百四十一年ヨリ地質ノ改正ヲ始テ同四十七年
 ニハ其價一アクル六十元ニ至レリ九此七年ノ間耕
 糞料取扱等ノ費三萬四千三百六十三元八十七セント
 ニシテ得ル所ノ利益三萬六千二百六十九元三十四セ
 ントニ至ル畑ノ原價ニ種物糞料并巨大ノ建物及ビ畑
 改正ノ入費等ヲ加テ猶改正セル畑並ニ其諸産物ノ價
 之ニ超テ三萬七千元餘則千七十九年ナラシ歳入五千五
 百元ニ當レリ右改正ノ手段ハ馬屋牛欄ノ肥糞灰石灰
 骨塵等ノ碎海鳥ノ糞等ヲ用ヒ全地細密ニ深ク之

ヲ耕シ溝渠ヲ通シ所々ニ雜草ノ種ヲ駭シク蒔散セシ
 ナリ千八百四十七年ニ用シ肥糞ノ高一千二駄ニ及ビ
 千八百四十七年ヨリ同七年マ他ノ肥糞ニ費セル價
 八千元ニシテ千八百四十八年得ル所産物ノ利一萬四
 千元ニ超ヘタリコレハ穀類小麥及ビ烟草等ハ算セズ
 數年前迄苜草杯ノ外ハ生セザリシ地ニ養ヒシ家畜ノ
 乳汁肉等ヨリ出ル所ノ利ノミナリ其頃斯ク非常ノ改
 変ヨリ國中耕作ヲ業トスル者は恐クノ魔術ノ致ス所
 ニヤト悉ク此畑ニ目ヲ注ケリ當時ノ大統領泰洛爾國
 務ノ暇一度此畑ヲ訪ヒカプロン氏ノ空トシテ數日滯

留シ深ク其精算ヲ称賛セリ此州ノ傍ノ過キル旅人馬
 上ナルハ轡ヲ駐メ鐵路ヲ走ルモノハ車窓ヲ開テ其學
 問ノ識見如此ノ大業ヲ起シ其耕耘ノ妙術如此ノ改正
 ヲ遂タルヲ感歎セザルモノナシ元來巴里底莫華盛頭
 ノ間ハ浩々タル砂漠不毛ノ地ナリシガ此ラウレルノ
 畑ノミ獨リ豊饒ヲ得タルヲ羨ミ人々心カヲ耕耘ニ用
 シカバ目今ニ至リテハ漸々其地ヲ變シテ耕耘ノ園ト
 ナスニ至レリ○千八百五十四年英倫諸爾州ニ移住シ
 三子ト共ニカヲ合テ荒野ヲ開拓シ爰ニ再ビ畑ヲ開キ
 デウオン牛最ヒノ一種ヲ牧養シ殊ニ西部ニ名聲ヲ掲タリ

密士失必河畔ノ諸部ニ於テ牧牛ノ最上品ナル者ハ此
 同氏ノ手ヨリ出シナリ○同氏耕作ノ事ニ付官途ニ在
 シハ其時間モ甚永ク一州ナズシテ諸州ノ耕作社
 中ノ頭紗或ハ副頭紗ニ歷任セリ故ニ耕作ノ事件ニ付
 其基本ヲ工夫スル事ニ妙ヲ得タリ然レモ同氏ハ官務
 ヲ以テ耕作ノ周旋ヲ爲スノミヲ足レリトセズ自ラ畑
 起シ牛羊ヲ牧シ人ト相競争スルヲ以テ樂トセリ之ニ
 由テ馬理蘭ニテ新ニ改耕セル畑ヲ以テ一萬元ノ褒賞
 ヲ得シ事屢ナリ又馬牛秣穀等ノ各種ヲ以テ同州ノ會
 社ヨリ褒賞ヲ得シ事三百餘度ニ及ベリ又西部ニ移住

セシ後チ「シカゴ」名地ノ市ニニ其牛ノ「ワレタル」ガ爲ニ
 感状ヲ得本州牧牛ノ會及ビ「イェルノ」展覧會ニモ第
 一等ノ褒賞ヲ得タリ其外北部牧牛ノ會ニ於ルモ盡ク
 褒賞ヲ得ザルナク就中「ウールウオーキー」名地ノ市ニハ牛
 褒賞ニ數百元ヲ得タリ同氏廿年間諸州ニ於テ檢牛ノ
 會ニ得ル所ノ褒賞數千元ニ超タリ實ニ西部ニ於テ此
 「デウオン」牛ノ如キ最上品ナルモノナル事ナシ故ニ競ヒ
 敵セントスル者ナシニ至レリ○千八百六十七年第十
 一月廿九日耕作總裁ニ舉ラレケリ其才實ニ此任ニ適
 當セルトハ其所置ノ成功ニ依テ最明詳ナリ同氏ハ極

テ南北及ビ西部ノ地味物ヲ産スルノ度量及ビ其缺乏
 スル所ヲ知レリ故ニ此撰任ノ機會ニ依テ我國ノ富ヲ
 シテ倍スル正ニ數ヲ以テ「サ」スベキト預ジメ知ラレ
 タリ去レレ「銳意」進歩ヲ貪ル壯年ノ血氣ハ今實驗上ニ
 得タル老練ノ功ト沈著セシ才智ニ依テ頗ル之ヲ和解
 セリ而テ改正ノ策ヲ了察スル事甚銳ク且人ニ遇スル
 極テ親愛懇功ニシテ其鴻益アル事ハ速ニ之ヲ施シ敢
 ラ勞ヲ厭フヲナシ然レレ又巖然ナル能ザルニ非ズ其
 性廉直志氣高尚ナリト雖モ又毫モ矜誇驕傲ノ色アル
 ヲ見ズ故ニ平九ノ田夫野人モ親シクカフロン氏ヲ知

ル者ハ最能ク其為人ヲ筭シ辨ベシ

新聞雜誌第十號附錄 終

撰者伏テ四方ノ君子ニ告グ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行シ其旨意ハ前ニ述レ所ノ如シ但事興聞見目ノ及ル處多シ紙ノ同好ノ人何事ニヨラズ其愛ハ新聞ノ書集ニ本局及ビ下ニ列スル書弘處ニ寄セ玉ハ次第ニ刊行發賣シ旧習ニ書付テ其住處姓名ヲ又テ載セ玉可シ無名ノ書ハ敢テ採ラズ無根ノ浮言造謠アルヲ恐ル

- 一切賣買 引等坐ニヨツテ出版スル事件
 - 新發明巧器及書籍等 賣買
 - 田地山林家屋舟車等ノ賣買賃借 金銀其外ノ賃借等
 - 一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買 失物寄物等
 - 一諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等 御ヒモ集會等 引札
 - 一店ニヨリ新陳賣出等ノ引札
- 右等何レノ行ハシテ字一度出版價ニ宛宛同事
三、月分、廿四、五、分、六、月、廿、六、日、受、入、金、

新聞雜誌定價

一 號定價銀 每份 每月 三號元出板

二 月分引受候向定價引 割半引

六月分 割引

三 年分 割引

本局 通定前金受取候上 毎號發兌順序 本局 御座敷
候又速方取次賣以方聖之 入本局 引台 御相談可申候

東京小川町今川小路

本局

日

新

堂

同西國橋山田三丁目

賣取所

和泉屋金三郎 此



